

特集

食とICU You are what you eat!

「何を食べるか」これは、極めて個人的かつ日常的な命題だ。

しかし、「どんな料理で? どのように入手して? 誰と? いつ? どこで? 何のために?」と、食にまつわる5W1Hを考え始めると、それは、文化、科学、政治経済、国際関係、開発、環境、心理、教育等々重なりあった背景が浮かび上がり、まさにリベラル・アート! 今日、私達は何を食べるのか。世界は、今後も人類を養うことができるのか。「ICUと食」を考えてみたい。

インタビュー:栗山のぞみ、野仲裕子 構成・文:栗山のぞみ(ともに本誌) 写真:青地あい(本誌)



ICU卒業生に、食に関わる分野で活躍している人々がいる。 第一線の食文化ジャーナリスト、レストランオーナー、料理研究家……。 現役の学生たちの中にも、世界の食と環境を考えつつ活動しているグループがある。 今回は二人の卒業生と一人の学部生にお集まりいただき、 ご自身とICU、そして食との関わりについて語り合っていただいた。

「大学食堂にフェアトレードコー ヒーを入れてもらえたことは、う れしい衝撃でした」(福室)

――まずは、福室さん、お仲間と一緒に大学食堂にフェアトレードコーヒーを導入する活動をされたそうですが、そのあたりからお話しいただけますか。

福室大輔:ぼくは今学部4年生で、《Trade Fair! ICU》という学生サークルのメンバーです。このサークルは2007年頃に留学生が始めたもので、ぼくが入学した頃は「大学の中に何かフェアトレード商品があるべきだろう」という議論が盛んでした。みんなで映画を見たり、本を読んだりしながら、ICUの中でどんなことができるかを考えつつ、学食や売店の方々と相談を重ねていました。例えば、「このチョコレートを入れて欲しい!」とぼくらは簡単に考えるので

すが、売店や食堂にしてみると卸の会社との契約があって簡単ではないそうです。そこで行き詰っていたのですが、ちょうど2年生のときに新しい食堂がオープンすることになり、このタイミングならと思って、2つの提案をしました。ひとつは「食堂で三鷹産の野菜を使って欲しい」ということ、2つ目は「フェアトレードコーヒーを扱って欲しい」ということです。

森枝卓士:フェアトレードという言葉は、これから食や環境、貧困問題とかを考えるとき、かなりキーになると思うけど、日本では食に関して言うと、オーガニックという言葉の方が知られてますね。

川村菜海: そうですね。私はフェアトレードの食品や衣料品などを扱う会社に勤めています。2012年の3月に行われたインターネット調査では、日本でフェアトレードという言葉を知っている人は25%ぐらい。

内容まで正しく理解している人は約17%でした。フェアトレードは、単に生産者と公正な取引をするだけではなく、途上国に暮らす社会的・経済的に立場の弱い人々に仕事の機会を作り出し、自立と生活向上の支援をすることまでを含みます。

福室:ぼくが高校生のときにフェアトレードってスゴイと思ったのも、単なるチャリティではなくて、新しい持続可能なシステムを目指す動きだからです。

食堂にお願いしたとき、野菜は難しいと のことでしたが、コーヒーだったらなんと かなるかも、と言ってくださいました。そ こで、サークルの仲間とフェアトレードコ ーヒーを卸している会社を探して情報提供 をしました。一方で学内では、「フェアト レードを知っているか」「フェアトレード のコーヒーがいくらだったら購入するか」 等のアンケートを実施。150円ぐらいまで だったらOKという回答が多かったと思い ます。そして価格の見合う卸会社も見つか ったので、次は、販売テスト。「1ヶ月に 10杯売れたら行けますよ」とのことでし たが、クリアして本格導入ということにな ったのです。これは、けっこううれしい衝 撃でした! 普通のコーヒーはショートサ

イズで100円、フェアトレードは130円で 売られています。今もあるということは、 フェアトレードも社会的に認知されたのか な。

川村:最近は、中学や高校の英語や地理の 教科書にフェアトレードという言葉が出て きますよ。

福室:ぼくが中高生のときはなかったのですが、今の新入生は、学校の授業で習ったそうです。だから、フェアトレードのサークルにも、けっこう新入生が来てくれます。森枝:それにしても、このチョコレート(川村さん持参の《ピープル・ツリー》ブランドのチョコレートを手にとって)、パッケージもおしゃれなのがいいですね。主義主張が前面に出過ぎると受け入れにくいから。川村:原産地の途上国のこと、その文化が産んだ伝統のことなども含めて、フェアト



パッケージもカワイイ《ピープル・ツリー》のチョコレー

レードの意義をきちんと説明することは大切だと考えています。ICUで文化人類学を専攻し、留学先でも開発学などを学んだので、そのあたりは今の仕事にも少し役立っているかな。ただ、森枝さんがおっしゃるように、押しつけがましかったり、堅苦しいと伝わらないし、手にとってもらえなくなるので、デザインも含めて工夫しています。

「自分の中でものの見方の基準 に何を置くかということ。私にとってはそれが食」(森枝)

――森枝さんは、長らく食文化の取材をされていますが、ご自身の原点は何ですか。

森枝:ぼくは熊本の水俣で生まれ育ったんです。水俣病というと世間では環境問題とか公害問題というふうに捉えられるけれど、もともとは食の問題なわけ。だから、否応なく食べ物と環境のつながりを感じながら育ってきたと思います。

カメラを買ったばかりの高校生のとき、 ユージン・スミスという写真家が水俣に滞 在して取材すると聞いたので、会いに行っ て、彼のカバン持ちというか助手のような ことをさせてもらいました。今思えば、イ チローとかダルビッシュが近所に引っ越し てきたから「野球好きなんです~」って行 ったようなもんだね。田舎の高校生だから ICUなんて知らなかったのだけど、ユージ ンの奥さんのアイリーンがここの近くの ASIJ (American School in Japan) の出 身で、この大学のことを教えてくれました。 ICU時代は文化人類学を専攻しながら、遺 跡発掘のアルバイトでお金を貯めて、バッ クパッカーでしょっちゅうインドやアメリ カに行き写真を撮って回って……。その頃 はマイナー雑誌に写真を持って行くと売れ たから、これで食って行けると勘違いしち ゃった(笑)。

――当初は戦場カメラマンだったとお聞き しましたが、なぜ食の分野へ?

森枝:遅れてきた戦場カメラマンですよ。 1975年にベトナム戦争が終わり、ぼくが アジアにいたのはカンボジア内戦の1978 年ごろから。新聞社の助手とかしながら、 内戦とか麻薬の密輸とかそんな取材ばっか りやっていた。で、メシとなれば、国境の屋台のようなところで現地の人たちと同じものを食う。これがウマイんですよ。 路上でメシを食いながら「どうして俺たちこんなことも知らないんだろう」って思ったわけです。エライ人達は、大国のパランスがどうの、経済がどうのと言って いるくせに、当事国の庶民が何を食べているかも知らないだろうな、と。日本で考え

れば、都心の帝国ホテルかなんかに泊まって、総理大臣や財界のお偉いさんだけインタビューして「日本とはこういう国だ」とか書かれたら、「違う!」って思うでしょ?タイやラオス、カンボジアの人が何を食べているか、まずそれを知りたいと思って始めて、ずーっとこの道です。でも、政治とか経済とかも、結局はそういうことじゃないかな? 人の暮らしが無かったら成り立たないという意味で。

いまでこそ、日本ではエスニックレストランもいっぱいあるけれど、当時はほとんどなくて、日本に帰ってから現地の味を再現したいと思って探したら、タイ料理のナンプラーなんかは、能登のいしる、秋田のしょっつるが近いし、イカの塩辛をちょっと水で薄めると同じような味になる。じゃあ、そのつながりはなんだろうとか、寿司の起源も辿っていくとなれ寿司に似たものが東南アジアにあったり、そのあたりを勉強して、30年ぐらい前に『食は東南アジアに在り』(共著 1984年)っていう本を書いたんですよ。

川村:実は、私、高校時代は森枝さんみたいなフォトジャーナリストがあこがれの職業で、大学で同じく文化人類学を専攻したし、写真の勉強もしていました。森枝さんはずっと食のことを取材されていますが、食の分野でもご自身の興味って移り変わったりするのですか?

森枝: そうですね、変わってきたとも、変わらないとも言えるかな。今日のテーマみたいになっているけれど、オーガニックやフェアトレードに代表される環境や流通、経済と食の結びつきは、いまや欠かせものの見方の基準に何を置くかということ、もなりません。そこそこ長く生きてくると、いろんなリテラシーが身についてくるでしょ? 例えばあの政治家の言っていることは胡散臭いなとかは、漠然とではなく経験則でわかってくる。何か一つについて深く知ってば、それが軸になってそこから広がる。食はその一例ですよ。

——この特集にあたっては、"You are what you eat" という言葉を噛み締めています。自分の体が食べたもので出来ているということ、あまり考えてこなかったな、と。

森枝:一つには、たぶん、周囲に「これは食べたらヤバイかもしれない」ものがほとんどない環境で育ってきたというのもあるでしょう。味覚ってもともとそういうもので、苦味とか渋味は、本来は体に対する毒を意味しているから、ほんの少しだけでもその成分があれば、舌のセンサーが感じる。

でも、甘みはちょっと入っているぐらいじゃ感じない。糖はエネルギー源だからまとまって摂取できないと意味がないから。塩分はミネラルとの相関関係で感じ方も変わります。だから、何かを食べて「美味しい!」と感じるのは「よくぞ、このからだが求めている栄養素を摂取してくれましたね!」という脳からの報酬なんですよ。何を食べたらよいのかは、ほんとうは体が知っている。でも、今は、周囲に安全な食べ物が豊富にあるから体の感覚が麻痺しちゃってますよね。

味覚とは別に、情報を「美味しい!」と感じることも起こります。カッコイイ有名人が「これは美味しい」とか言うと、美味しく感じるとか。それは、物語を食べさせるということ。間違っているとか、正しいとかじゃなくて、食べ物の裏のストーリーも情報として味わう。フェアトレードとかも結局はそうなんじゃないかな。

福室:食べ物じゃないんですけれど、自由が丘にある《ピープル・ツリー》のお店に行って、ニットキャップを買おうとしたんですよ。そうしたら、なんだかサイズが違う。店員さんに「これ、SとかMとかあるんですか?」って聞いたら「一応規定サイズはあるのですが、作り手の手の大きさによって微妙に違うんです」って聞いて、「スゲエな!」と感動しました。既成概念がひっくり返る面白さ……。

川村:もちろん、現地には担当者がいて技 術指導や品質管理もしているんですよ。で も、ひとつひとつ手作りなのでどうしても 個性が出てしまうのです。

福室:それがぼくにとっては新鮮でした。 「どれも同じ」ではない。作り手が見える というか……。価格だけを見れば他の既成 品よりは高いのですが、デザインも結構い いし、唯一のものだと思えば面白い。これ は「なにかをしてあげる」社会貢献ではな いですよね。伝わるメッセージがあるから、 持続可能だと思うんです。

川村: それを理解していただけるのはありがたいですね。フェアトレードって効率とはなかなか共存しにくいシステムなんです。森枝: 食生活そのものも、産業構造や所得水準などによって二分化してきているように思いますね。私も大学の授業で「食べたものを書き出して」と学生にやってもらうと、ちゃんと栄養バランスを意識して食べている人と、食べたい時に食べる、スナック菓子だけでも平気という人がいて極端ですよ。中産階級が減りつつある中では、ちゃんとしたものを食べられるのとそうでない階級に別れる。その中で、ちょっと値段が高いフェアトレード食品を増やそうというのは難しい側面もあるでしょうね。



森枝卓士 Morieda,Takashi (22 ID78)

フォトジャーナリスト、大正大学客員教授。熊本県出身。世界各国の食文化を写真と文章で綴る他、ユニークな切り口で食を捉えた児童書やエッセー等多数の著書がある。「食べ物記」(福音館)、「図説 世界 100 の市場を歩く」(河出書房新社)など。"カレー大王"としても知られ、週刊ヤングジャンプで 12 年間にわたり連載され先ごろ完結したカレー漫画「華麗なる食卓」(集英社)の監修を担当。最期の晩餐は……候補がたくさんありすぎてねえ、と一言。



川村菜海 Nami,Kawamura(42 ID97)

フェアトレードブランド《ピーブル・ツリー》を展開するフェアトレードカンパニー株式会社勤務。東京都出身。ICU 卒業後出版社勤務を経て、人類学と開発を学ぶために英国に留学。現地でフェアトレードが一般に浸透しているのに触れて、日本でも普通の人が購買行動を通して食や環境を意識するような仕事に関わりたいとの志を現る、現在の職場と巡りあう。広報および啓発活動を担当。最期の晩餐は……明太子ごはん、お味噌汁、かぼちゃの素付けでほっこりと。



福室大輔 Fukumuro,Daisuke(学部4年 ID13)

東京都出身。高校時代に心酔していたロックバンド Coldplay のドキュメンタリーを見て、ピアニストの手の甲に書いてあった "Make Trade Fair" というアピールでフェアトレードを知り、衝撃を受ける。ICU に入学後、サークル《Trade Fair! ICU》に加わり活動。仲間とともに、学食にフェアトレードコーヒーを導入することに尽力した。最期の晩餐は……たらこスパゲティと即答。

――「なにを食べるか」を決める要因は、 やはりお金なのでしょうか。

森枝:それこそ、ストーリーなんじゃないかな。10万円のワインが1万円のワイン よりも10倍旨いのかは数値化できない。 ただ、1年に5000本しか作れない特別なワインで、何年もかけて熟成させたものを、今、あなたのために開けましょう……となれば別物でしょう。ICUワインも、ICUの先輩が作っているというプラスアルファのストーリーを楽しむ。もちろん価格と味のバランスで考えても、あれはかなりお得感あります。物語を買うということが普通になれば、フェアトレードも、もう少しうまく回るようになるのではないかな。

川村:もちろん、フェアトレードでは商品を購入することで現地の生産者の生活がよくなるというストーリーがあるのですが、「いい話だから買ってください」だけではないのです。低価格な商品には大量生産やコスト削減などの企業努力もあると思いますが、買い叩かれた原料で、人件費の安いどんな環境で労働者が働いているのかもわからないものもたくさんあります。私たちの見えないところから来る怖さがあります。フェアトレードの商品は、現地の人にとっても安全に生産できるもので、流通も見えている。それは購入する私たちの生活の安全と安心にも直接つながってくるのです。

例えば、今日お持ちしたチョコレートで すが、原料のカカオ農家の方を先日ボリビ アからお招きしたんです。実際の農場の様 子をお話しいただいたのですが、単にオー ガニック、無農薬で作っているだけではな くて、「アグロフォレストリー」という農 法で、単一栽培ではなく、カカオと一緒に 自分たちが食べる野菜や果物も組み合わせ て植えている。例えば、あるフルーツは、 全ては収穫しないで残しておくと、野生動 物が畑にやってきても先にそのフルーツを 食べて満腹になるのでカカオが守られると か、木陰をつくるために植えている木々の 葉が落ちると、堆肥になったり。こうした 工夫で多様性を維持し、人も、カカオも、 動物も守られる。その中で育てられたもの であれば、私たちも安心して食べられます。 福室:ぼく自身はフェアトレードを勉強す ることで変わったと思います。確かにちょ っと高い。でも、日本に入っているフェア トレード商品はたいてい美味しいですし、 洋服はデザインも作りもしっかりしていて

長く着られるものがある。そういう意味で満足度が高いです。コンビニでチョコレートが100円、150円、200円とあったとき、価格だけではなくて「これ、どこから来たのかな? 大丈夫かな」って考えるようになりました。大丈夫かなっていうのは、「100円でこれできるのかな?」と。大量生産って便利だけれど、反動もあると思うんですよ。誰かが損したり、苦しんでいたりしないかな。そういうことを考えるようになりました。

森枝:生産、流通がよく見えるのは、やはり売り手の方ですよね。産業社会が、莫大な人口の衣食住を支えるようになると、どうしても、効率化するしブラックボックス化する。顔の見えない関係で、どこで誰がつくったかわからない服、食料になっていく。だから、川村さんたちのような仲介者の役割は重要ですよ。

日本で言えば、ストーリーの伝わる商品に一般の消費者がアクセスできるようになったのには、宅配便の流通網が革命的な役割を果たしました。まだ既存の商店やレストランでは、先ほど福室くんが言ったように、フェアトレード商品を入れるのは難しいだろうけど、消費者が直接購入できる流通が一方では出来上がっている。社会の中でフェアトレードをもう一段階広めるには、優秀な仲介者が、都市の好感度な人の購買意欲を刺激する商品に仕上げられるかどうかが課題だと思います。

「何を食べるかを選ぶことは、ど ういう社会に生きたいかを選ぶ こと」(川村)

――こういう食スタイル、例えばフェアトレードを意識して購入するということ、どうやって周囲に伝えたらよいと思いますか?

福室:シンプルに、女の子にモテるよ、と。 森枝:それ、すごく大事! (笑)

福室:サークルでは《ピープル・ツリー》さんから若者向けの商品をお借りして、学内で小規模なファッションショーをやったことがあります。そのとき、友だちに話したのは「既存の生産、流通とは違う選択肢があるよ。日常のレベルで手に入るよ」ということ。フェアトレードだから、社会の構造がこうなっていて生産地の支援になるからというのも必要な情報だけれど、そこまで言わなくても、ぼくたち若い世代は、



既存のシステムや制度に対して懐疑的な、 ロックな心があるので、違う選択肢に出会 うこと自体を楽しめると思います。

川村:何を食べるかを自分が選ぶということは、どういう社会に自分が生きたいかを選ぶことだと思います。誠実に食料を生産、加工している人がきちんと生活できる社会がいいと思ったら、それを支えるという選択が私たちにはできる。食べることは体に栄養を取り入れる大切なことだけれど、何を食べるかは、どういう人になりたいか、どういう社会を自分の子どもたちに手渡していきたいかということでもあると思います。

福室さんとサークルのみなさんが学食でフェアトレードコーヒーを飲めるようにしてくれたおかげで、ここでは選ぶことができるようになりました。選ぶ力を、消費者として発揮することが大切なんですよね。企業は消費者の声を一番気にしていますから、私たちが「これを食べたい」「これを飲みたい」と言うこと。その力を「目指す

社会のために行使するんだ」と、みんなが ちょっとでも意識するようになれば世界は 変わるかな、と思っています。

森枝:既存の制度とは違う選択肢を選ぶ、自分の求めるものを見極めて主張する、どちらもICU生は得意そう(笑)。もう一つ加えるとしたら、"You are what you eat"という話に戻って、食べたものが自分の体をつくるという自然な感覚を忘れないようにしたいですね。違和感のあるものを自分の体に取り入れたくない、こんなものが自分の一部になるのはイヤだ、心地良いものを取り入れたいという原始的な回路を働かせることもポイントだと思います。

哲学と天文学に親和性があるように、体の中と外がつながっているという感覚がもっと働いてもいいのではないかな。いずれにしても、王道からちょっと外れる方が好きとか、何をやってもエクストリームに行き過ぎないというICU感覚(笑)、大切だと思いますよ。

(2012年11月17日大学食堂にて)

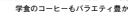


笑顔で皆にフェアトレードコーヒーをサーブしてくれた福室さん



ポスターでフェアトレードコーヒーをアピール

Café menu			
offee/Tea	コーヒー/紅茶	Short	Tall
coffee	プレンドコーヒー	100	130
trade coffee	タフェアトレードコーヒー	130	160
esso	エスプレッソ	120	
coffee	アイスコーヒー	100	130
uccino	カプチー/	120	160
otte	カフェラテ	120	1 PE 1
rfé latte	アイスカフェラテ	120	16
ocha		130	
'é mocha	アイスカフェモカ	130	1





野菜たっぷりの肉野菜いため



カリッと揚げたてアジフライ

学食の支配人さんに聞きました

取材: 櫻井奈津実(本誌) 文: 栗山のぞみ

――フェアトレードコーヒーの導入に関して、苦労されたことなどはありますか?

やはり、仕入れ先との関係ですね。当 初学生さんからフェアトレードコーヒーを扱っている会社のリストをもらいましたが、その中にはICU食堂の仕入先はありませんでした。そこで、仕入先の一つである三本コーヒーに問い合わせたところ、たまたま取り扱いがあったので現在はそこのものを使っています。これは北海道の工場で作っているコーヒーで、発注から到着まで時間がかかるため、切らさないように注意しています。

――売上は普通のコーヒーと比べてどの 程度ですか?

1日20杯出るかどうか……普通のコーヒーと比べると1/8ですね。1パック500gとして、1日10~15杯出ればコー

ヒーの質が保てるので、最低ラインは保っている感じです。フェアトレードコーヒーを頼まれるのは、教授など固定のお客様です。実は、このコーヒーは薄い軽めの味なので、ラテなどに加工できないのです。今後もフェアトレード食材を扱うかどうかは、やはり仕入先の都合によります。

――学生からメニューなどに関して意見 はありますか?

食堂には意見箱を設置しています。いただくご意見は、味、値段、分量(が少ない)などがほとんどで食材に関するものはあまりないです。これは他大学の意見箱でも、似通っています。ただし、東日本大震災後は放射能の影響を心配してか、食材の産地についてのお問い合わせもありました。直接お問い合わせいただく他に、学生サービス部に「学食委員会」

というものがあり、ネット上で学食に関するアンケートを行い、総務部へ渡ったあと学食に指示が来るという仕組みもあります。最近では、11年暮れから12年初頭にかけてアンケートが行われました。そうした機会もぜひご利用ください。

ICU食堂支配人 田中伸幸さん



学食で使われているフェアトレードコーヒー のラベル



いつもおだやかな田中さん



新 D 館の 《ラ・テラス》 にもフェアトレ-ドコーヒーがある

ICUで食を学ぶ·····!?

~授業の中で出会う「食」~

リサーチ: 櫻井奈津実 文: 栗山のぞみ

人の命を支える食の問題は、実に複雑で多岐にわたる現代の課題と関連している。 では、ICUの授業ではどのように扱われているか。 学生編集委員のリサーチに基づいて報告する。

●ジェネードの人気科目「食品科学」

ほぼ唯一、コース名に「食」が入る科目です。これは、2007年秋学期からの開講で、2011年まで5年間行われました(12年は休講、13年以降も継続)。担当は小林牧人先生(本学生物学メジャー担当教授)と石崎松一郎先生(東京海洋大学准教授)。小林先生によれば、ICUには応用科学の講義がほとんどなく、アンケート等からも、文科系の学生を中心に応用科学的な科目の要望があったため開講したとのこと。

食は、生活の中で重要な要素にもかかわらず、マスコミ報道などでは、「ある食品を食べると●●に効く」等といった科学的に誇張された、あるいは全く誤った情報が広まる(フードファディズム)ことがあります。授業では、こうした俗説に惑わされず、食品について科学的な理解を得ることの重要性を学びます。

受講した学生からは、「身近なことを 科学的な切り口で学ぶのが面白い」「学 問領域だけでなく、実生活でもcritical thinkingが大切であることがわかった」 等の反応が多いそうです。授業の中では、 化学調味料などを使って食品成分の味や 臭いを体験したり、一連の講義後(秋休 み期間)に東京海洋大学に出向いてかま ぼこ製造や人造イクラ作りの実習を見学 したりと、ICUの他の授業では体験できない要素があるのも人気の秘訣のようで
オ

●Table For Two導入のきっかけに

現在学食では、Table for Two(*) プログラムが実施されていますが、その きっかけとなったのが2009年の冬学期 の「サービスラーニング特別研究Ⅱ」。 当時のシラバスを抜粋すると「コミュニ ティにある課題を見つけ、問題解決にむ けてサービス活動を行い、学術面との結 びつきをもとめ、最終的に意義のある提 案を提供するというコミュニティ・サー ビス・ラーニングの主旨にもとづき、一 つのプロジェクト(名称: Our Food Project) を実施します」とあります。ま た、ICUの「食」の問題解決を目指して、 南北問題、世界の飢餓や貧困、豊かさの 配分の不平等性などの課題を見つめ、日 本の農業の現状、食の安全、食料自給、 意識的消費者行動等も学びながら、「最 終的には、自分たちの望む『食』の姿を 具体的に提示し、ICUコミュニティ成員 の食の実際や考え方に貢献する」とも。

●食を通して文化を比較する

人類学の「文化の比較」(担当:ショウン・K・マラーニー教授)では、比較

の切り口として食を取り上げています。 この授業では、食と人間の進化、社会や 組織における食物生産、文化的階層と食 等を学びます。特筆すべきことは、受講 者は1ヶ月間自分の食べたものを記録し、 分析すること。この経験を通して、食に よる文化比較というテーマを体験的に深 く自分の中に落としこむことになります。

●国際的な視野から食を捉える

12年度のシラバスを見ると、国際関係学の「地球環境と持続可能な開発」(担当:毛利勝彦教授)では、気候変動、生物多様性保全、森林、淡水や海洋などをめぐる国際関係についての事例研究を行うとあり、講義のタイトルの中には「水

と食料をめぐる国際関係」もあります。 同じく国際関係学の「グローバル社会正 義論」(担当:青山学院大学押村高教授) では、貧困と食料分配問題について触れ たそうです。

*Table for Twoとは……先進国の肥満 と途上国の飢餓の問題を同時に改善しよ うとするNPO法人「TABLE FOR TWO International」の取り組み。栄養バラン スのよい低カロリーメニューを社員食堂 や学生食堂に導入し、1食につき20円 が開発途上国で子どもの給食のために使 われる。ICUの学生食堂では2010年から 導入されている。



食ビジネスに参戦するICU生

文·写真 野仲 裕子(本誌)

株式会社ギガデイン 木村考宏さん・角幡陽平さん



都電早稲田駅のそば、新目白通り沿いに ある「武蔵野アブラ学会」。ICUの卒業生 ふたりがやっている油そばのお店だ。イン パクトがある店名だが、「地名が入るとち ょっとブランドっぽいでしょう。武蔵野市 は油そばの発祥の地、あとは大学が近くだ ったので付けただけです。」というのは、 同店を経営する、株式会社ギガデイン代表 取締役の角幡陽平さん。「お店の名前の第 二候補は『アブラ(油)カタブラ』だった んですよ。」というのは、同代表取締役の 木村考宏さん。ふたりの口からポンポン出 てくる「ゆるめ」のエピソード。どこまで 本気なのかわからなくなってしまう。ちな みに会社の名前「ギガデイン」はドラゴン クエストの呪文だそうだ。

それは寮から始まった

ふたりの出会いはICUの男子寮・カナダ ハウスでだった。木村さんは保守的な風土 が肌に合わず、応援団と喧嘩の末、岩手の 高校を3ヶ月で退学し、埼玉の高校に再入 学。その時から一人暮らしを始めた。「お 金がないこともあって、朝から晩まで料理 番組を見て、レシピをメモして自炊してい ました。食べることも料理することもその 時から大好きでしたね。」ICUを選んだのは、 受験勉強と無縁の入学試験形式だったから。 「学校にほとんど行っていなかったので単 位が足りなくて、卒業も危なかったんで す。一方、角幡さんは北海道で高校時代 を過ごし、交換留学で1年間オーストラリ アへ。「その時から海外に興味がありました。 高3の3月に戻ってきたので日本の大学受 験に間に合わず、海外の大学を受けようと 思っているときに、ICUを見つけました。 ICUの受験はスタートラインが一緒ですか らね。何とかなるかなと思っていました。」 そうしてICUに入学したふたりが、カナダ ハウスでの寮生活を通して知り合うことに

在学中、今を予感させるようにふたりで ひと仕事したことがある。「2002年の日韓 ワールドカップの時です。食堂でパブリッ クビューイングをやろうということになっ て。ふたりで告知をして、チケットを1枚 500円で売ったんです。でも前日まで全然 人が集まらなくて。立派なプロジェクター も借りていたし、元手もかかっていたんで やばいかなーと思っていたが、フタを開け てみたら2回の開催で1200人以上の学生を 動員しました。食堂がいっぱいになって、 最後のほうは人を窓から入れていましたね (笑) そのときの儲けは二人で分けました。 大人数でワイワイ仕事するのは好きではな

卒業後、絵描きを目指していた角幡さん は、海外の美大を受けるために2年間アル バイトで資金を貯め、ドイツのデュッセル ドルフへ。「現地の美大などをいくつか受 験したのですが全くダメで。ユーロ高とい うこともあり、結局2年間で戻ってきまし た。」一方、木村さんは、ソニーミュージ ック・エンタテインメント(SME)に入社。 SMEが経営するアパレルや雑貨の物販部 門でバイヤーとして、洋服や靴を国内・海 外から買い付けていた。「会社には入った ものの、最初から30歳になったらサラリ ーマンを辞めて独立しようとは考えていま

30歳を目前として、木村さんにはすこ しずつやりたいことが見えてきていた。「ソ ニー時代、買い付けでよくアメリカ西海岸 に行っていました。カリフォルニアって朝 食文化があるんですよ。アメリカは東海岸 から先に朝になって、そこから西に向かっ て夜が明けていく。だからNYなどと仕事 をする西海岸の人たちは、朝5時とか6時 には起きなくてはいけないんです。だから ひと仕事して、東海岸の人がランチを食べ ているときに、西海岸の人は朝食をしっか り食べます。カリフォルニアにすごくおい

角幡陽平(写真左)Kakuhata, Yohei(43 ID03) 1979 年北海道生まれ。ICU に入学し、国際関係学科で国際政 治を専攻。卒業後、2年間のフリーター生活を経て、ドイツ・ デュッセルドルフへ。現在、株式会社ギガデイン代表取締役。「最 期の晩餐ですか?油そばは……食べたくない (笑) 子どもの頃 から好きだった、とびこの軍艦巻きですかね。」

木村考宏(写真右)Kimura, Takahiro(43 ID03) 1979 年岩手県盛岡市生まれ。単身上京し、埼玉の高校に入学。 ICUでは社会科学科で経済学を真攻。卒業後、ソニーミュージッ クエンタテインメントへ、 現在、株式会社ギガデイン代表取締 役。「僕はね、焼きとん屋の名店でモツと黒ホッピーですね。 これが私の最大の食の楽しみなので。」

しい朝食を出すレストランがあって、夜は 投げ銭でインディミュージシャンがライブ をしていたりと、そのカフェは地域の核の ように存在していましたね。これを日本で やったら流行るだろうなと考えていまし た。し

なぜ「油そば」だったのか

当時、ソニーの経営方針が変わっていた こともあって、木村さんはSMEを退社。 カリフォルニアのカフェとの提携を、偶然 友人の結婚式で再会した角幡さんと本格的 に始める事になる。しかし誘致に向けての 交渉は、二人とも仕事をしながらで思うよ うには進まなかった。「とりあえず今自分 たちでできることを、なんとなく」という ことで、2009年2月に板橋区大山に担々麺 の店『桐梓林(トンズリン)』を開店。ラ 一油も練り胡麻も全部手作り。こだわりす ぎて仕込みに時間を取られることもあり、 なかなかビジネスとして軌道に乗らない 日々が続いた。「毎日毎日、まかないで担々 麺を食べていて、うんざりしていたときに 好物だった油そばを作ってみたんです。す ると手間も時間も担々麺の20分の1くらい。 油そばいいじゃん!って(笑)」そんなと きに早稲田で物件を見つけ、2009年10月 に今のお店をオープンさせる。また、その 1ヶ月後には近所で『トナカイ小麦店』と いうカフェを始め、大山のお店と合わせて、 一度に3店舗を経営。その後、2010年1月 には神田店を開店させた。

現在は早稲田店と神田店、池袋店の3店





都雷早稲田駅すぐそばの早稲田店

舗となり、神田店をセントラルキッチンと し、全ての店舗で同じものを提供できるよ うにしている。角幡さんは主に早稲田店、 木村さんは神田店を見ている。2011年に はお店で提供している油そばのタレが、モ ンドセレクション金賞を受賞した。油そば やラー油は今春から通販が始まる予定。「今 でも少しずつ味を変えていっています。永 福町大勝軒という繁盛店があるのですが、 そこの社長が『お客さんの変わらないねと いう声を維持するためには、変え続けてい かないといけない』ということを言ってい たんです。これはどのビジネスにも繋がる 経営哲学ですよね。変化を恐れていると縮 小していきますから。」と木村さん。「おい しくしすぎないということを意識していま す。うちの店はほとんどがリピーターさん。 大トロは毎日食べられないでしょう。おい しいものって続くと疲れてしまうんです。 でも白米のように、何となく毎日食べるも ののほうが続けて食べられるんですよね。」 と角幡さん。来年は2店舗を開店予定。他 業態もスタートさせ、3年後、売上7~8 億円(年間)を目指している。「そこでも う一度、個人の幸せを追求するか、企業と して成長させていくのかをじっくり考えた いですね。」と木村さん。

「僕たち?そんなに仲良くないですよ。 むしろ悪いから一緒に仕事ができてる。寮 生活でよかったなあと思うのは、生活する ことでお互いの悪い所まで全部知ることが できたこと。今さらイヤになったりはしな いですよ。寮生活での人間関係は、本当に 価値があったと思っています。」と角幡さん。 「え?夫婦みたい?違いますよ。だって愛 情はないですからね(笑)ふたりでプライ ベートの話をすることは一切ないです。お 笑い芸人のコンビもプライベートでは電話 もしないって言うじゃないですか。そんな 感じですね。たまにリサーチがてら一緒に ご飯を食べに行ったりはしますけど。」と 木村さん。付かず離れずの絶妙な関係が作 り出したなんとも美味しい油そば。ぜひ食 べてみて欲しい。

武蔵野アブラ学会

早稲田店 東京都新宿区西早稲田 1-18-12 神田店 東京都千代田区内神田 1-16-2 日祝定休 池袋店 東京都豊島区西池袋 3-25-8 町田ビル1 F (株)ギガデイン 千代田区内神田 1-16-2 Tel:03-3291-3252

お問い合わせはこちらへ。 お店のサイト:http://www.aburagaku.com/ 通販サイト:2013.3 月オープン予定

ラー油プレゼント!

おふたりのご厚意で、本紙をご覧の5名の方に武蔵野 アブラ学会のラー油 (1本 180ml) をプレゼントします。 同窓会事務局まで本紙の感想、ご希望するラー油の種類 を明記の上、メール・ハガキでご応募ください。発表は 商品の発送をもって代えさせていただきます。

【ラー油の種類】

- -1. お店で使っているゴマ油ベースのもの
- 2. 幻の担々麺専門店『桐梓林』で使っていた五香ラー油

3. 青いハラペーニョラー油

「食べる」ということを仕事にする。

それは自分のできることを社会に還元していく最も分かりやすい方法かもしれない。 その先に必ずいる「食べてくれる人たち」のことを考えて、

食ビジネスで活躍する彼らは今日も「食」と真っ正面から向かい合う。

株式会社リバネス 塚田周平さん



「理系のインフラ」を整備して、社会に 提供する――そんな企業がある。株式会社 リバネス。社員は全員理系の分野で修士、 博士をとったスペシャリスト集団だ。「理 系の人」というと、大学を卒業し、大学院 に入って研究者になって……と考えがちだ が、この会社は営業、企画、経理、販売促 進の全てを彼らが手がけている。

その会社で「食」を中心とした事業展開 を担当しているのが、地域開発事業部部長 の塚田周平さんだ。「『福幸豚』というブラ ンド豚の開発に取り組んでいます。沖縄に 養豚場を持っているので、そこで豚にシー クワーサーを与えたり、アセロラを与えた りして、それらが豚にどういう変化をもた らすのか研究していました。これらのもの をエサとして食べた豚は、融点が低く、口 に入れたとたんトロリととろけるのが特徴 です。今ではそれを自分たちで運営してい るレストランで提供したり、地元沖縄の食 堂などでも使ってもらったりして流通まで 手がけています。」このように開発した技 術を社会で生かすために、自分たちでも流 通・提供を経験したいということで、現在 都内で飲食のお店を3店舗展開。三軒茶屋 にはワインバー『アゲマキ』、飯田橋には 梅酒ダイニング『明星』そして本社の1階 では『リバネスカフェ&ダイニング』を連 営している。

「アグリ・ビジネス」を 仕事にするということ

小さな頃から生き物が大好きで、高校に 入って生物を学んでからは、自分で教科書 を読んでは、環境や食料問題に対して、生 物学を生かして何か出来ないかと考えてい たという。「この頃は、すごい麦を作りた いと思っていたんですよ。一定の収量がと れて、土壌と光が安定的に保てれば、全人 類が食べていけるのではないかなど、高校 生ながらに漠然と考えていましたね。」自 分がやりたい生物学を他の学問と対比しバ ランスよく見られるからという理由で、 ICUへ。大学では自然科学科で生物学を専 攻。卒論では上遠先生に師事し、「農薬が 田んぼにいる甲殻類(カブトエビ)にどう いう影響を与えるかという環境評価を研究 していました。 ICU卒業後は、東京大学 農学生命科学研究科で、マメ科の根にでき る根粒(こんりゅう)についての研究をし ていた。「根粒ってマメ科の植物にしかで きないんです。根粒というのは、植物が自 力では持ってこられないチッ素を体内に取 り込む手助けをするもの。それを別の植物 の根に移すことができれば、収量を増やし たり、肥料をあげなくてもよい品種にでき たりするのではないかというテーマで研究 を続けていました。」このように自分がや ってきた研究を生かして、新しい技術を開 発し、それを実際社会で機能させてみる。 それが塚田さんが本当にやりたかったこと、 つまりアグリ・ビジネスだった。「しかし、 アグリ・ビジネスの問題点として、研究レ ベルのものを、きちんと利が生まれるビジ ネスとしてアウトプットできるのかという ことがあります。そういう、技術だけでは なく、社会に対しての仕組みづくりが必要 だなと考えるようになったんです。|ある日、 |教授にそのことを相談したところ、| 君は 研究者としてここに居続けていてはいけな い。早く社会に出たほうがいい。」という アドバイスを受け、博士課程まで修了した 後、大学院の研究室の先輩が起こした今の 会社に入社する。

「リバネスという会社は、設立当初から 小学校や中学校などに実験キットを届け、 理系の出前授業をする仕事が中心の会社で す。今でもそれは変わりません。」ただ、 このような人材育成の経験は、子どもたち だけではなく、今や様々な企業から求めら れ、新しい動きを生み出している。例えば Pascoで知られるパンのメーカー、敷島製

塚田周平 Tsukada,Shuhei (47 ID03) 1979年京都生まれ、鎌倉育ち。ICU では自然科学科生物学専攻。 卒業後、東京大学大学院農学生命科学研究科で修士・博士課程 を修了。大学院卒業と同時に株式会社リバネスに入社。現在、 地域開発事業部部長。2歳の女の子のお父さん。「最期の晩餐 は……カツ丼! (即答) だってお米と大好きな豚肉が卵でとじ てあるって、サイコーでしょ。」

パンは、パンの原料となる小麦を国産でと いう食料自給率向上活動のもと、オリジナ ル小麦『ゆめちから』を開発。それを高校 の出前授業で生徒たちと一緒に学校に植え て、どんな気候、環境であれば一番良く育 つのかを一緒に考えている。子どもたちに とっては、このような経験を通して、答え のない勉強をすることは非常に大切だとい う。「こういうお話は、企業のCSR、広報 のセクションからお話をいただくことが多 いです。子どもたちにもっと自社の技術を 活用して科学教育に貢献したいがどうすれ ばいいかということで、我々に声をかけて いただくことが多いですね。」

教育分野だけではなく、技術提供の分野 でも様々な企業と仕事をしている、最近で はサンドイッチ・チェーンSUBWAYの「サ ブウェイ野菜ラボ丸ビル店」の店内に、自 分たちで開発した『植物工場』を丸ごと設 置した。植物工場というのは、完全に人工 的な環境の中で植物を育てるユニットのこ と。「人工光なので、光を安定的に供給す ることが可能ですし、室内で密閉した環境 で育てるので虫もつかないし農薬も使いま せん。そのようにして作っている過程をお 客さんに見てもらいながら、新しい技術を 抵抗なく受け入れてもらいたいということ で、ケースごと店舗の真ん中に設置しまし た。限定的ではありますが、そこで採れた 野菜を使ったサンドイッチも提供していま すよ。」この塚田さんが提案した『店産店消』 モデルは、2011年にグッドデザイン賞を 受賞した。

企業ブランディングと 食ビジネス

昨年12月からは、オリジナルブランド 豚の開発に関わったとんかつ『まい泉』で、 その豚を使ったメニューの提供が始まった。 「まい泉では、カツサンドを作るときにど うしてもパンの耳の部分が不要になってし まう。一方で小麦ベースのものを飼料とし て与えると、豚というのは肉質がとても良 くなる。こうしてパンの耳をエコフィード (再生飼料) として与えたのが、まい泉の オリジナルブランド豚『甘い誘惑』なんで す。今は青山本店レストランのみでの提供 ですが、これからみなさんの目に触れるよ うな機会が増えていくといいと思っていま す。」

このように企業が技術研究にもお金をか け、それを消費者にも分かりやすい形でプ レゼンテーションする機会が増えてきてい る。いわゆる企業ブランディングだ。「会 社がサイエンスの部分に切り込んで、企業 価値を高める。そのようなモデルケースが 増えてきています。なかなかこういうこと を企業の内部でまかなうということは難し いので、僕らの会社が企業と研究者の橋渡 しになってつなげて行くということもして います。自分たちの特殊性を企業に理解し てもらって、こちらから提案しながら、企 業と一緒に仕事をしていく。そういう共生 型企業というやり方が、企業PRにもつな がりますし、ブランディングにもなってい るのです。」

サイエンスという違った切り口から提供 される、アッと驚く様々な「食体験」をぜ ひ体感してほしい。ちなみに、『アゲマキ』 ではミドリムシ(学名:ユーグレナ・グラ シリス)の粉末を使ったミドリムシ・ハン バーガーを絶賛提供中。食べてみたい人は ぜひどうぞ。

株式会社リバネス

リバネスウェブサイト:http://lne.st/ 福幸豚通販サイト: http://fukuyuki.com/



「ミドリムシハンバーガー」美味しくて体にも良いとか!?



三軒茶屋「アゲマキ」の店内



鉄板で出てくる和風ハンバーグ。スープとライス付

A_Campus

キャンパス物語、ついに最終回 今回は、キャンパスの見どころと その将来について、です

ICUキャンパス物語(第14回・最終回)

ICU キャンパスの楽しみ、未来のキャンパス

文=樺島榮一郎(1993年社会科学科卒、1997年行政学研究科卒

7年間にわたって連載したキャンパス物語も今 回でひとまず最終回である。前回の第13回 「1978-1981」で記述したとおり、1981年ごろの 建設をもってICU キャンパスはひとまず完成し、 その後、約20年、主要な建物の建設は行われて いない。その点から、ここで一区切りである。ま た、筆者が在学・在寮し、キャンパスでほとんど の時間を過ごした1989~1993年は正にこの完成 期の時期であった。キャンパス物語は、在学中や その後に感じたさまざまな疑問を解消するために 始めたもので、それなりの回答を得たこともある が、最大の成果は、それまであまり知られていな かったキャンパスや建物の歴史的価値を広く知っ てもらうことができたことであろう。さらに言え ば、再びキャンパスで建設が行われるようになっ た2000年以降は、歴史研究の対象としては時間 的に近すぎ、調査研究が難しいこともある。

今回は、最終回として、これまでの連載を振り返りつつ、ICUキャンパスを楽しむためのいくつかの視点を紹介し、ICUキャンパスの将来のあり方について考えてみたい。

空間構成からみるキャンパス

第1回では、「ICUキャンパスの空間謎解き」という題で、ICUキャンパスの特徴を明らかにした。ICUのキャンパスといえば、緑が多い、広いというイメージを持つ人が多いが、実は日本の他の大学と比べて特に面積が広いというわけではない。確かに建物の密度は低いが、それだけでは広さを感じさせることはできない。見通しがきく、視線が通る、ということで広さを感じる人間の視覚の特性を生かした、日本の大学にはあまり見られない独特の空間構成が、このような感覚を抱かせるのである。

この空間構成の要素として第一にあげられるのが、大規模なビスタである。ビスタとは、直線の道の両側に並木などを配し、遠近感を強調するランドスケープの手法であり、実際の距離以上に空間の広がりを感じさせるとともに、ある種のフォーマル感を抱かせる工夫である。キャンパスには、正門 ー 礼拝堂、礼拝堂前ロータリー ー ICU高校、の2本の主要なビスタがある。特に、正門から続くビスタは、その焦点を礼拝堂ファサードに設定した象徴的なものである[1]。2本のビスタは、幅、奥行きともにスケールが大きく、それが広さを強調している。キャンパスにほとんど高低差がない

ことがこのようなビスタを可能にしている。この ビスタは中島飛行機三鷹研究所の建設の際に中島 知久平により作られた歴史的な遺構でもある。

ビスタの効果とICU独特の空間の変化は、正門から礼拝堂に向かって歩くと良く分かる。通常、ビスタの直線を強調するため、その両側の樹木は樹形が整ったものを植えることが多いが、ICUでは桜が植えられ、トンネル状になっている。その長い桜並木のトンネルを抜けると、ロータリーで大きく視界が開け、礼拝堂の十字架、入り口が見える。さらに教会の入り口に立ってみてほしい。正門まで見通せることがわかる。それは、礼拝堂が、盛り土により1~2mほど、持ち上げられているためである。

第二の要素として、オープン・クアドラングル (Open Quadrangle) がある。オープン・クアド ラングルとは、中庭を中心に4辺をそれぞれ独立 の建物で囲む形式で、イギリスのケンブリッジ、 オックスフォード大学の一体の建物で中庭を囲む クローズド・クアドラングル形式に基づき、ハー バード大学で成立したとされる、典型的なアメリ カのキャンパス配置である[東京大学:1997:46]。 ICUにおいて、オープン・クアドラングルといえ るのは、本館 - 図書館 - D館 - シーベリー・ チャペルで構成される空間(いわゆるバカ山)と、 本館 - N館 - ILCで構成される空間であろう。 ICUのオープン・クアドラングルは、ごく初期の スケッチ等から採用されており、初代主任建築家 ヴォーリズのアメリカ人としての感覚が反映され たものと言える。特に本館前のクアドラングルは、 芝生で約100m四方と、適度な大きさがあり、見 通しがきくことから、広さを感じさせる空間とな っている。イタリアの有名な広場などは、この程 度の大きさを持つものが多い。

第三の要素は、D館や、寮の周囲など、キャンパス内に小規模な里山的な林を点在させていることがあげられる。もともと里山林とは、農家が、肥料を得るために下草や落ち葉を集めたり、燃料を得るために定期的に伐採したりすることによって形成される半自然林で、関東地方では、クヌギやコナラ、シイといった落葉広葉樹によって構成される。下草がなく、若い広葉樹からなることから、明るく、見通しが利き、歩きやすい。多少の見通しのある里山的な林を透かして建物が見えることによって、直接、建物を認識するより、遠くにあるように見える。また、ダイアログハウスを

除けば、建物は3~4階の高さで、木々の樹冠を 超えることなく、少し離れると建物の存在が感じ られなくなる。これも、緑が多い、広いという感 覚に貢献しているのである。これはD館南側の林 や、第二男子寮の北側などに見られる。

上記の景観上の特徴は、ICUのキャンパスの重要な構成原理であり、今後も保持されるべきものであろう。

歴史の焦点としてのキャンパス

第2回から第5回は、泰山荘の建設、中島飛行機による土地買収、終戦直後の放置、ICUによる土地買収など、ICUキャンパスの前史ともいうべき時期を取り上げた。この時期は、1934年から1950年の約15年にすぎないが、この三鷹大沢の地にとっては激動の15年であり、日本の歴史を象徴するかのような不思議な15年であった。

泰山荘は、日本産業(日産)の専務取締役、山 田敬亭の別荘兼茶室として、1934年から39年に、 当時の著名な茶人であった裏千家の亀山宗月の設 計のもとに建設された。亀山が、この土地を選択 した理由としてあげられるのは、第一に富士山の 眺望である。泰山とは中国の聖なる山の名前だが、 大山(大きな山)の音とも重なりスミス :1993:501、富士山を意識したものであろうと思 われる。第二に、平坦な台地、はけと呼ばれる崖、 崖下の湧水、野川と、多彩な地形がコンパクトに 存在し、自然のままで、変化にとんだ庭園の要素 を持っていることが上げられる。第三に、都心か らの適切な距離と、美しい自然環境により、別荘 地として適していたことが指摘できる。泰山荘が できる以前にも、三軒家集落には、洋画家富永氏 の洋館や、日本橋の裕福な商人、森山氏の別荘な どがあった。泰山荘で最も価値のある松浦武四郎 の一畳敷き[2]を持つ茶室は崖の中腹にある。さ らに下ると、石碑や、かつての滝の跡、わさび田 の跡などが見られ、かつての泰山荘の面影を感じ ることができる。普段は公開されていないが、 ICU祭の折に公開されるので、足をお運びいただ

泰山荘の落成披露茶会は1939年5月に盛大に開かれたが、1940年6月に、山田は、泰山荘とその敷地を中島飛行機社長であった中島喜代一に売却する。名義は喜代一であるものの、実質的な買い手は、喜代一の兄で中島飛行機創立者の中島知久平であった。これを手始めに、中島飛行機三鷹研

究所を開設するため、ICUキャンパスのみならず、 府中免許センター、武蔵野公園、野川公園、アメ リカンスクール、富士重工東京事業所、元安田信 託グラウンド (現在建売分譲地)、中近東文化セ ンターなどを含む、60万坪(200万㎡)という広 大な土地を買収した。研究所は、「世界から各分 野の優れた学者を集め、政治、経済ならびに航空 機を含む先進技術の総合的な研究機関」[富士重 エ:1984:40]を構想してのものであった。中島知 久平のこの地に対する思い入れは強く、1948年 に死去するまで泰山荘に自ら住み、研究所の道路 のみならず木の配置等まで差配したという。現在 のキャンパスの基本的なレイアウトは、このとき に出来たものである。三鷹研究所の起工式が、真 珠湾攻撃が行われた1941年12月8日であったこと は、スミス[1993:60]の言うとおり「気味の悪い 一致」であり、偶然とはいえ、この地の戦争との 繋がりの深さを感じさせる。現在の本館の元とな る建物が完成したのは、1944年春のことである。 三鷹研究所は、大規模な爆撃を受けることなく終 戦を迎え、戦後の混乱の中で、しばらく放置され ることとなる。

ICIIの設立は 終戦直後の1945年9日の東京女 子大理事会で構想が出されたことに端を発し、そ の後は北米教会連盟協議会と北米外国宣教協議会 との協力関係の元に進められた。ICUをこの地に **導いたのは、日本側の国際基督教大学建設委員会** の委員長であった山本忠興である。山本は、 1947年にこの地を視察し、将来的には調布飛行 場も含めた100万坪にキリスト教大学を中心とし て国際的諸施設をここに集中完備したいという意 図をもって、この地の買収を決定した。山本は、 募金委員長に日本銀行総裁の一万田尚登を迎え国 際基督教大学建設後援会を組織する。副会長に東 西の経済連合会会長、相談役に芦田均首相、片山 哲前首相ら、評議員に全国諸大学の学長、大銀行 の頭取、大新聞社長が名を連ね、支部長に全国の 県知事、銀行頭取、商工会議所会頭らが就任した 国際基督教大学建設後援会は、「日本国の政財学 界をあげての未曽有の大募金運動」を展開した。 終戦直後のキリスト教への期待もあったが、靴を すり減らすような多くの関係者の努力と、「日本 のいろいろの地方の小学生や中学生たちが、あめ 玉を買う小遣をも節約して」寄付してくれた[湯 浅: 1980:52]というような市井の人々の共感から、 1951年夏には1億6000万円もの募金が集まり、こ









図1 本館屋上から見たクアドアングル 芝生、バカ山と呼ばれる起伏、梅の木からなるこの空間は、一般の人のみならず専門家も(むしろ専門家こそ)皆、 賞賛する素晴らしい空間である。この空間は、ICUのコ アであり、校風そのものと言っても良いかもしれない。 ここはすでに守るべきレベルに達していると言えよう 図2 本館とクアドアングル

クアドアングルの空間は、本館に抱かれるように、本館との密接な関係により成り立っている。本館は、その位置と規模によりクアドアングルの絶妙な大きさを規定し、そのシンメトリーな形状と中央玄関への道があってこその、バカ山、アホ山の二つの起伏である

図3 ロータリーと礼拝堂 ここもICUの象徴的な空間で、今後も維持すべきレベル に達している部分であろう。こういったレベルの空間を あらゆる場所に配するキャンパスであってほしい 図4 礼拝堂入り口からみたマクリーン通り 礼拝堂が盛り土により高められていることにより、はる か正門まで見渡せる。設計の意図からすれば、途中のバ ス停ロータリーは存在すべきではないのだろう ,7 2U

[1] 当初、礼拝堂は本館の西側、現在のシーベリー・チャベルの 位置に計画されていたが、教会が大学の中心であることを対外的 に示すため、現在の位置に建設された[ヴォーリズ:1952]。

[2] 松浦武四郎は、幕末に北海道を探査した探検家にして、各地の文人と交流を持ち、自らも篆刻(テンコク、印章を彫りこむ技術)を行う文人であった。一畳敷きは、晩年の武四郎が、各地の由来のある木を集めて作った書斎で、武四郎の遺族から紀州徳川家当主で侯爵の徳川頼倫に譲渡され、その後、山田に買い取られてこの地に移された

参考文献

[東京大学:1997] 東京大学工学部建築計画室『大学の空間』 1997年 鹿島出版会

[スミス:1993] ヘンリー・スミス「泰山荘 松浦武四郎の一畳 敷きの世界」1993年 国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館 [富士重工:1984] 富士重工業株式会社社史編纂委員会編「富士 重工業三十年史」1984年 富士重工業株式会社 [湯港:1980] 湯港八郎「私の生きた二十世紀」1980年 日本基

[湯浅:1980] 湯浅八郎『私の生きた二十世紀』1980年 日本基督教団出版局

謝辞

キャンパス物語は、多くの人々の協力があって執筆し、完成させることができました。お忙しいなか丁寧にインタビューにご対応いただいた、片桐郁夫氏(元一粒社ヴォーリズ建築事務所東京事務所長)、稲富昭氏(稲富建築設計事務所、元一粒社ヴォーリズ建築事務所所員)、泰良信氏(元一粒社ヴォーリズ建築事務所所員)、西嶋泰親氏(レーモンド設計事務所元取締役)、渡邊博文氏(レーモンド設計事務所設計部長)、谷村留都氏(元稲富建築設計事務所所員)、後藤伸一氏(元前川建築事務所所員)、橋本功氏(前川建築設計事務所代表取締役所長)、原礼子氏(湯浅八郎記念館館長代理・学芸員)、堀啓二氏(株式会社「楊造研究所取締役所長)、高橋恂氏(元 ICU 管財部長)、公口汎邦氏(東京工業大学名誉教授)、メールでのインタビューにご協力いただいた竹中恭二氏(元富士重工社長)に感謝いたします。また、手紙や資料を快くお貸し頂いた一粒社ヴォー

リズ建築事務所の方々、その資料の整理を手伝っていただいた 新井元君 (94) のお力添えにより、それまで知られていなかったヴォーリズと ICU の関わりの詳細を明らかにすることができました。さらに、泰山荘に関する素晴らしい研究書を書かれたヘンリー・スミス先生、戦時中のキャンパスについて研究され、ご助言いただいた高柳昌久先生、大変お忙しいなか、写真撮影のアテンドをしていただいた、広報センターやパブリックリレーションズ・オフィス、管財課、学生サービス部ハウジングオフィスのみなさま、写真や人物の照会などでお世話になった図書館史料編纂室の方々、その他、さまざまなご支援を頂いた ICU の方々に感謝いたします。最後に、読者である同窓生の方々に、さまざまな場面で話しかけていたき、お手紙やメールなどを頂いたことは、非常にはげみになりました。みなさま、7年間のお付き合い、ありがとうございました。

の地を買収ことができたのである。当時の寄付カードを湯浅八郎記念館で見ることができる。このような歴史も、ICUのキャンパスの重要な価値といえよう。

建築史からみるキャンパス

三鷹の地の買収が決定した1年後の1948年から 49年にかけて、ニューヨークのJICUF(日本基 督教大学財団)は二人の著名な建築家に、今後の 三鷹キャンパスの建設に関して意見を聞いた。一 人は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(William Merrell Vories)、もう一人はアントニン・レーモ ンド(Antonin Raymond)であった。ヴォーリ ズは、滋賀県近江八幡を拠点に神戸女学院や関西 学院大学などをはじめ、非常に多くのミッション・ スクール、教会などを手掛けていた。レーモンド は、東京を拠点に、やはり東京女子大学等のミッ ション・スクールや、教会、住宅などの設計を行 ってきており、英語で意思疎通ができる点も含め て基督教の大学の建築に関して、この二人に意見 を求めるのは順当であった。この時、ヴォーリズ は、本館を含めた中島飛行機時代の施設やレイア ウトを生かす意向を示し、レーモンドは、中島時 代の施設をすべて撤去し、一からキャンパスを建 設することを主張した。JICUFは、経済的状況を 踏まえて、ヴォーリズの案を採用、ヴォーリズは 1949年から1956年まで、ICUの主任建築家を務め、 本館改装や、寮、教職員住宅、旧礼拝堂、旧食堂、 メイプル・グローブ(楓林荘)など多くの建物を 手掛けた。現在は、食堂など撤去された建物も多 いが、本館1階の梁や、2階の水飲み場跡などに ヴォーリズらしい、ある面かわいらしい意匠を感 じることができる。また、人造大理石をカーブさ せて研ぎだしてある、本館廊下の壁の合わせ目に 注目してほしい。これはサニタリー仕上げという ヴォーリズ独自の形状で、隅にゴミがたまらない ように、掃除しやすいようにという配慮である。 階段の手すりなども、ぶつけても痛くないよう、 角を丸めてある。ヴォーリズの細やかな配慮と手 間を惜しまない丁寧な仕事ぶりがうかがえる部分 である。

その後、1958年から1962年までは、レーモンドが主任建築家を務め、礼拝堂改装、図書館、住宅を手掛けた。レーモンドのモダンな意匠は、図書館の東側、西側のひさしや、西側から見える屋上塔屋、玄関やトイレなどに見ることができる。

ヴォーリズとレーモンドは、どちらも日本の建築 史に名を残す著名な建築家であり、同じような分 野を得意としていた二人がお互いをどのように認 識していたかについては、これまでほとんど知ら れることがなかった。しかし、ICUでの様々なエ ピソードから、お互いをライバルとして意識して いたこと、特にレーモンドの強烈な対抗意識とせ 築家としてヴォーリズを低く評価していたこと な どを明らかにすることができた。その象徴が、ヴ ォーリズによって立てられたものの、レーモンド によって全面的に改装された礼拝堂であろう。ま た、戦後のヴォーリズの活動はほとんど知られて おらず、その点でも、ICUでの活動、その結果残 された建物は貴重である。

1963年から1978年ごろまで主任建築家をつとめた稲富は、モダニズムの技術と意識を用いながら、単純なモダニズムを凌駕する意匠を実現するという意味において、モダニズムの次に位置する建築家といえる。稲富の建築は、N館や寮などもあるが、体育館と教育研究棟が良い。体育館は、夜、外から見ると、屋根の枝のように見えるトラス部分から照明の光がもれ森の木々のように見え、また内部はワッフル天井による照明が美しい。集成材を使った腰壁も独特である。教育研究棟の外観は、窓のリズムを窓の下部に取り付けられた白い水切りが強調している。内部もトイレと廊下で床のタイルを変えていたり、煉瓦の積み方で隙間を設け空調口としたり、仔細に観察すると非常に丁寧に作られていることがわかる。

そのほか、前川國男が手掛けた湯浅八郎記念館や、ヴォーリズ東京事務所の所員であった片桐泉によるモダニズム的で大胆なシーベリー・チャペルなど、見どころは多い。

これからのキャンパスへの提言

これまで、ICUキャンパスをさまざまな角度から見てきたが、それらを踏まえて、今後のICUキャンパスについて、いくつかの提言を行いたい。 筆者が想像するのは、庭園のような美しく機能的なキャンパスである。ICUのキャンパスは、現状では、まだ、それを守り、維持するほどの完成の域に達していない。それは、さらに美しく、機能的に改善する余地があることを示している。

第一は、長期的に同一の専門家が関与することである。1978年以降、ICUは専属の建築家を置いていないが、キャンパスに対して熱意を持ち、長

期的にキャンパスを見てくれる、建築やランドス ケープ、環境などの専門家を置くことを考えても よいと思う。利点としては、まず第一に、10年、 20年というスパンでキャンパスを継続して見る ことにより、キャンパスや建物に関する長期間の 情報の蓄積が可能になることが挙げられる。これ により、人事ローテーションで人員が入れ替わる 行政部門を補い、数十年単位の長期的なプランを 管理し、建物の補修などの場合、補修履歴や使用 状況などを文書だけでなく実際に見た経験として 伝えることができる。第二に、大規模な建設の合 間に行われる小規模な改修にも専門家の視点を生 かすことができるようになる。空間は、大規模な 建物や道の建設が印象を形成するのとまったく同 じように、垣根や駐輪場、電気設備やゴミ捨て場、 エアコンの室外機などの、細かい部分でも印象が 形成される。「神はディテールに宿る」という、 ミース・ファン・デル・ローエの言葉通り、細か い部分こそ空間形成には重要であり、そこにある 石一つたりともおろそかにしては、美しいキャン パスは実現しない。建物を建設する際には建築家 が設計を行うが、こういう細かい部分の設置や改 善は、日常の業務からランダムに発生し、建物を 設計した建築家が担当できるとは限らない。また、 キャンパス内の里山林など、長期的に手入れが必 要な自然環境も存在する。その際、キャンパスを 継続して見ている専門家がいれば、キャンパス全 体の空間構成や実際の使用状況、景観等を踏まえ て、助言や設計ができるだろう。この専門家は、 特定の会社組織ではなく、個人がよい。会社組織 であれば、正式な、そしてある程度の金額が発生 する契約が助言の前提となる。担当者の異動もあ り、長期的に細やかに見ていくことが難しい。も ちろん、個人であっても長期契約の場合、問題が 発生する場合も考えられ、また、辞任した場合の 継続性の問題もあるから、ICUのキャンパスに思 い入れがあり専門知識を持つ2,3人の小規模な委 員会的な構成をとり、長期的な観点からキャンパ スにかかわる様々な事柄や情報を監督・蓄積して いくのがよいと思われる。

第二に、実際の建物の設計に関しては、上記の 長期的な専門家とは別に、継続して建物を設計す る建築家(これまでのICUの言い方では、主任建 築家となろう)を置くか、コンペにするか、のど ちらかにするのが良いだろう。1978年以降、建 物の建設計画が持ち上がると、建築家の選定に多

くの労力をかけるケースがあるが、継続する建築 家もしくはコンペにすれば、このようなことは起 こらない。この二つの方法には、それぞれ利点と 欠点がある。長期間、一人の建築家に任せれば、 建物の意匠に統一感を持たせることができ、長期 的な視点や、キャンパス全体のことを十分に理解 した上で、設計することができるが、もしICUと 合わなかったとしたら、さまざまな面で困難がお こる。一方のコンペは、広報の題材としても使え るような、最新の建築が実現するが、長期的な観 点やキャンパス全体の調和はやや弱くなるかもし れない。いずれにせよ、大学の建物は、それ自体 で知や美を表し、その大学を象徴するものでなけ ればならない。それで用が足りる程度の単なる建 物であってはならないのである。最初に挙げた、 継続的にキャンパスを見る専門家と十分に協議の うえ、長期的に関係を持つ建築家を選定するか、 コンペにするかを決定するのがよいだろう。

第三に、キャンパスに対して、熱意を持つ人を 学内外に限らず活用すべきである。初期のICUは、 中島飛行機時代から戦後の混乱期も(推測するに 無給であったのかもしれない)泰山荘の管理を続 けた園丁の宮沢吉春氏を雇用したが、現在も、そ の空間や自然環境などに愛着を持っている人々が 少なからずいる。そういった人々を雇用するかど うかは別として、その知恵や力を借りて、一緒に なって良いキャンパスを作っていくような仕組み や慣習を実現したい。たとえば、定期的に手入れ が必要な里山林の管理は、地域の関心のある人々 と行ってもよいだろう。

第四に、歴史的な価値を十分に生かす必要がある。現在、その歴史を示す銘飯などはほとんどなく、あっても建物の内部におかれている。建物の外側に銘飯の設置し、キャンパスを訪れた人が誰でも見られるようにすべきであろう。また、ICUの多くの建物は、海外、特にアメリカからの寄付で建設されている。その寄付者に関しても銘飯等で知らしめ、顕彰することがあっても良いと思う。ICUは、キャンパスにおいても、美しさ、使いやすさ、知恵、環境、技術等のいずれの面においても世界で最高レベルを目指すべきである。これからさらに素晴らしいキャンパスが実現することを願ってやまない。



図5 寮の前の林 この林があることで、建物を林に透かして見ることになり、より遠くにあるように感じる



図6 本館1階梁 梁にはよく見ると、ヴォーリズらしい、ある種クラシッ クな装飾が施されている



図7 本部棟西側からみた図書館 特徴的な塔屋とひさしがいかにもレーモンドの意匠であ



図8 夜の体育館 透ける光が美しく、活動している様子を外に伝えている



写真/大間哲(34 ID90)

桜祭りのご案内

文:斎藤三穂(総務部担当副会長)

今年も啓蟄を迎え、昆虫も植物も土の中から力強い生命の営みを見せてくれる季節となってまいりました。そして、同窓会は桜の便りを待ちつつ、恒例の「桜祭り」を催します。今年の開催日は3月30日です。

ICU桜祭りは、同窓会総会、懇親会や支部長会議など、さまざまな企画を統合した総合イベントです。そして、毎年卒業50周年を記念し、今年は7期生の方々をお招きします。

2011年の大震災から2年が経ちましたが、日本はまだ復興半ばです。昨年の桜祭りのご案内にも記しましたとおり、私達はICUの理念「神と人とに奉仕する」と、人とのつながりの大切さを忘れずにいたい、と切に思います。

ぜひ、この機会に大学に足を運んでいただき、懐かしい方々との旧交を温める場となさってください。できるだけ多くの方々にお出でいただきたく、お知り合いの同窓生にお声かけいただき、ご参加くださいますようお願い申しあげます。

当日は、好評いただいておりますICUワインや日本酒「ばか山」をはじめ、同窓会事業部の企画によるICUグッズも多数ご用意しております。この機会に、実際にお手に取って、私達の渾身の作品を吟味なさってください。

【2013年 ICU桜祭り】

開催日: 2013年3月30日(土) 場所: ICUキャンパス内

● 総会・DAY授賞式・7期生の卒業50周 年記念式典

10:00 開場 10:30 開始 大学礼拝堂にて

総会終了後、DAY受賞者と7期卒業生 印有効) の記念撮影 ● 電子

12:30 プログラム終了予定

● 懇親会

12:50 ~ 14:00 (予定) ダイアログハウス内 大学食堂にて 参加費: 4000円 (卒業生)

多加資 · 4000円 (平桌主) 1000円 (在学生) ☆2012年夏・2013年春卒業の皆様は「無料招待」となります。

● お申し込み、お問い合わせ 各プログラムへのお申し込みお問い合わせ は、ICU同窓会事務局で承ります。

◆ ICU同窓会事務局

住所:〒181-8585

東京都三鷹市大沢3-10-2 ICUアラムナイハウス2 F TEL/FAX: 0422-33-3320

e-mail: aaoffice@icualumni.com <卒業生の皆様へのお願い>

総会出欠のご連絡を、以下いずれかの方 法で2013年3月17日(日)までに、お願い します。

- インターネット送信 (詳細は、同窓会ホームページhttp://www.icualumni.com/をご参照ください。)
- 本号に同封の返信はがき(3月17日 消 印有効)
- 電子メール aaoffice@icualumni.com
- ファックス 0422-33-3320

※災害等の不測の事態により緊急に中止する場合があります。そのような場合、同窓会ホームページでお知らせ致します。

※ 7期生の皆様へ

1月に7期幹事の方から郵送された「卒業 50周年祝賀に関するお知らせ」に同封の 出欠連絡はがきでご連絡済の方は、再度の 出欠をご連絡いただく必要はございません。

DAY (Distinguished Alumni of the Year) 賞は、ICUに在籍したことのある人 (卒業生・留学生・旧職員を含む) の中から、大学および同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、毎年10人程度を限度として、その功績を称えるために授与されるものです。

また、毎年 "Happy 10's" と称して、卒業してから10年・20年・30年・40年の節目を迎える同窓生の方々に、同窓会より記念品をプレゼントしております。17期(73年卒)、27期(ID83)、37期(ID93)、46期(ID03)の皆様、おめでとうございます。同期の方々とお誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。

同窓会正会員の方で、総会資料を事前に 入手されたい方には、同窓会事務局から、 ご登録の送付先ご住所に郵送いたします。 電話・ファックス: 0422-33-3320または 電子メール: aaoffice@icualumni.comに ご請求ください。



募金パーティは喜びのきっかけ

文:9・14募金パーティ担当理事 齋藤顕一(17期)

去る2012年9月14日に同窓会主催による募金パ ーティが北青山にあるイタリア料理店で開催され ました。昔の募金パーティでは、総収入から費用 を差し引いて残額を大学に寄付したのですが、今 回は参加費のうち予め大学に1万円を寄付するこ とにしたのも新しい取り組みでした。また、参加 できない人には、寄付だけでもお願いしました。 封書による連絡ではコストと時間がかかるため、 室内を同窓会役員と同窓会メールアドレスを持っ ている2千数百人の同窓生と大学関係者へメール で招待状を送ったせいか、あるいはご時勢のせい なのか、参加人数が期待を大きく下回ったのが残 念でした。募金パーティには60名弱の方々が参 加し、別途20名の方が寄付だけに参加してくれ たこと、また追加的に寄付を募ったこともあり総 額100万円をICUに捧げることが出来たのは感謝 でした。参加された同窓生、大学関係者、ICU教 会員の方々、また準備を手伝ってくれた同窓生や、 参加費を払ってでもお手伝いしたいと言ってくれ た6名の在校生には心から御礼を申し上げたい。 特に、多忙の中にも関わらずご奉仕いただいた世 界的なハーピストで34期の吉野直子さんや、フ リーのアナウンサー・キャスターの同34期の渡 辺真理さんには言葉に表せないぐらいの感謝を述 べたいと思います。本当にありがとうございまし

パーティは永渕同窓会長の挨拶に始まり、北米 に出張されておられた北城理事長と日比谷学長に 代わって、山本総務理事の理事長メッセージの代 読とご挨拶、また森本学務副学長から学長メッセ ージの代読とご挨拶をいただきました。心から感 謝申し上げます。引き続き内村募金担当副会長の 乾杯の音頭で食事と歓談が始まり、参加者全員が、 紹介し合い語り合えたことが素晴らしかったと思 います。渡辺さんの司会進行はいつも華があって、 みんなを楽しくさせる語りであり、吉野さんの楽 器についてのご紹介と演奏は参加者の心にしみい るものでした。このような素晴らしい機会をもっ と多くの人に経験してもらえなかったことが本当 に残念でした。参加者のどなたかが、「吉野さん も渡辺さんもICUの宝ですね」と言っておられた のが印象的でした。

なぜこの募金パーティを企画したのか。みなさ んも既に大学からの案内でご存知のように、献学 60周年記念行事募金が始まっています。少子化 が進む中で大学間の競争が激化していることや基 金の運用も難しいことで、ICUも収入を確保する ことが難しくなっています。一方、ICUの魅力の ひとつである少人数教育などにより他の大学より はコストがかかる体制であることに加え、本館や

体育館などの施設が老朽化しており、多額の出費 が求められています。墓金はまさに大学を支える ための重要な手段になるのです。今回の募金パー ティも大学からの呼びかけに同窓会として少しで も応えてみたいというのがこの企画の発端でした。

実は最初、"募金パーティ"という名称を使わ ないで別の名前にしようと考えたのです (笑)。 それは"募金"という言葉も"パーティ"という 単語の持つ響きも、不景気な世の中では受け入れ られにくいと思ったからです。友人達からよく聞 くのは、「大学や同窓会から来る郵便物にはいつ も"募金"や"寄付"を求められていて嫌になる」 というのがあります。確かに、子供さんを持たれ ている家庭には学校から募金を求める案内があふ れていて、"募金や寄付"という文字を見るだけ で嫌になるのでしょう。今のように不景気な世の 中では、将来に備えて預金をすることや、使える お金があったら家族や親しい友人に使うのが大事 で自ら進んで"寄付"することの優先度は低い。 そのような環境の中で、普段の静かな生活に"文 字による寄付の押し売り"が乱入してきて、余計 に知らないふりをしたくなるのでしょう (笑)。

とすると、募金の効果を高めるためにはどうす ればいいのでしょうか。2つありそうです。一つは、 墓金目的を共有化できる友達に直接お願いするこ と。今回も、参加者が集まりにくいことがわかっ た時点で、急遽この方法を採用しました。もちろ ん、この方法にもディメリットがあります。何度 も使えない!何度もやると友達付き合いがなくな ってしまうのです(笑)。もう一つは募金で集め たお金の"使い道の対象"を身近に感じるように すること。自分が寄付したお金の使い道そのもの を理解できるからです。母校にもどり老朽化した トイレやIT化されていない教室をみたら、なぜ募 金が必要なのか解ると思います。キャンパスは美 しいのですが、建物は悲惨な状況なのです。

私は、同窓会で貸与奨学金を希望する学生たちを インタビューする機会に恵まれました。正直、成 績優秀者で本当に生活に困っている学生が沢山い ることに驚いたのです。同窓会以外の奨学金を申 し込んでいる学生も多いので、困っている後輩た ちは沢山いることに気が付かされました。会社の 倒産やリストラまた突然の死別や離婚。アルバイ トはするものの、授業を重要視するために十分な お金を稼ぐことが出来ず生活が苦しいのです。彼 ら彼女達と会うと、きっとなんとかしてあげたい と思うようになるはずです。ICUの現状を言葉や 文章ではなく、実際に体験して知ることが大事に なるのです。



山本総務理事のご挨拶(左上) ハープという楽器について語る吉野直子さん(左中) 大阪から駆け付けてくださった近藤さん(関西支部世話人)と 鷲見さん、宮武さん(左下)

今まで同窓会理事会や友達の集まりでも"募金 活動の在り方"については、議論をしてきました。 使途が不明なのでもっと明確にすべきとか、募金 活動についての詳細が開示されていないとか。疑 問を持ち討議することは非常に重要だと思います。 知恵を出し合うことで、より多くの寄付を集め、 より多くのICUにつながる人たちを幸せに出来る からです。ただ、議論だけしても個人の"寄付を するという行動"が伴わなければ意味がないので す。1000円でも1万円でも積もれば山になる。理 解すべき大事なことは、困っている我々の後輩た ちは、将来に困るようになるのではなく"今、困 っているのです!"だから、今、寄付をするため

永渕会長の挨拶(右上) いつも笑顔の渡辺真理さんの語りかけ(右中) 森本先生のご挨拶(右下)

の行動が必要なのです。今回の活動が、"将来を 担う後輩たち"の笑顔のためのものであり、それ が毎月毎年の習慣になるきっかけになればと心か ら願うものです。

〈ICU60周年記念募金のURL〉

http://subsite.icu.ac.jp/anniv60/donation/

〈吉野さんが登場した「今を輝く同窓生」のURL〉 http://www.icualumni.com/interview/

腰窩・頭窩・姿勢の武事から ファミリーカイロプラクティック

私、佃 隆は、ICU在学中に現在の妻が院長を務める品川のカイロプラクティック院に通院し その効果を実感し、大学3年生の時にカイロプラクティックの勉強を始め、開業にいたりました。 2012年7月1日に、佃 隆の運営する有限会社PIONEROと佃 美香の運営する有限会社 さきみを合併し、カイロプラクティックを通じて健康の知識を伝えるためにという思いで、 株式会社Health Educationを設立しました。詳しくは夫婦で初共著の小冊子をご覧ください。

両院共に、産前産後の骨盤矯正ケア、赤ちゃんのケアも対応しており、0~100才まで 4世代で通院されるご家族もいらっしゃいます。キッズスペース、授乳スペースも完備しています。

お電話でお問い合わせください。



質い10の利用法 個隆考案のセルフケアが 8ページ特集 小冊子ご希望の方は、メール



ICLI祭11年ボランティア参加 収益金は全て同窓会に寄付されています。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院 @0800-888-4270 完全予約制 2名様/日



院長 佃 隆ICU44期(#00)国際関係学科卒 オーストラリア公立マードック大学健康科学学部 カイロプラクティック学科卒 健康科学士(カイロプラクティック)

開院時間:火•木•金14時~17時、18時~20時30分

土(月2回:15時30分~16時30分

http://mitaka-chiro.com/icu

院長佃美香

オーストラリア公立マードック大學健康科学学部 カイロプラクティック学科卒

健康科学士(カイロプラクティック)

開院時間:月•水•金10時~12時30分、14時~17時 土月2回:10時~12時30分、14時~17時

http://mitaka-chiro.com/mika

4_Interview

門倉多仁亜料理研究家

文: 森川幹人(本誌) 写真: 一之瀬ちひろ(本誌)



タワーマンションの21階にある家へ入ると、「どうぞー」と透き通った声が耳に届く。南向きのリビングには12月の太陽がたっぷりと降り注ぎ、大きなガラス窓を通して東京湾が見える。古風な茶色い和簞笥と、もみの木のクリスマスツリー。東と西の文化が心地よく響き合った空間に、赤と黄色と紫のチューリップがアクセントを加えていた。さわやかな風が通り抜ける開放的な居間がキッチンへ続いている。

トントントン。タニアさんが目に涙を浮かべながら、「きょうの料理」の主役を包丁でリズムよく刻んでいく。メインディッシュは「ドイツ風たまねぎのキッシュ」。フランス料理のキッシュの元になったと言われ、たまねぎの収穫時期に、その年に作った発酵途中のワイン(Federweisser)と合わせて食べる季節の料理だ。

「料理をする人がやりやすいと感じるものを作るのが大切なんです。適当にできる感じがないと毎日することなんてできないでしょ。私にとってはドイツのものが一番自然なの」

薄切りにしたたまねぎをフライパンに広げ、バターをひとかけら。塩を少し加えて蓋をすると、水分が出て中火ならこげる心配もない。20分ほど時間をかけ、飴色に

なるまでじっくりいためていく。

おばあちゃんの味

「子どもの頃、ドイツの祖父母に預けられていたときに料理を好きになりました。 みんなで作って、みんなで食べる楽しさを、 おばあちゃんが教えてくれたんです。パン 生地を使ったたまねぎのキッシュも作って くれました」

料理にまつわるストーリーを話しながら、 タニアさんは手を動かし続ける。キッチン の台では、キッシュの生地作りが始まって いた。バター、塩、小麦粉は、ミキサーを 使って効率的に混ぜていく。手を使わない ので生地が温まることもなく、冷蔵庫で冷 ます手間を省ける。

キッチンの壁には、老女のポートレートが掛かっている。小柄だが、がっしりした体型。年輪のように皺が刻まれた顔にひきしまった表情を浮かべている。イタリアの片田舎に暮らす、名前も知らないマンマ。雑誌で目に留めた姿になぜか心惹かれ、額に入れて飾っているのだという。タニアさんには、大きな影響を受けた「おばあちゃん」がもう一人いる。ご主人である門倉英公(ひでひろ)さんのお母さん。

「彼女は生まれ育った故郷である鹿児島にいるのが好きな人でした。畑での野菜作りはもちろん、お味噌、梅干し、つけもの、切り干し大根。自分で食べるものはなんでも家で作りました。季節に合わせてのお団子作りがカレンダー代わりになるような、土地に根ざした人生を送ったんです」

これまで、日本、ドイツ、アメリカ、イギリス、香港と多くの国に住み、「新しいものに興味を持って受け入れる性格が培われた」と振り返る経験を持つタニアさんにして、鹿児島での暮らしは新鮮そのものだった。

「新しい家族のなかに入って、最初はす ごーい!という驚きの連続でした。上下関 係も、あいさつの仕方も、男女の役割も。 でも、お味噌やお団子を作るのが好きで、通っているうちに慣れていきました。最初は外の人だったのが、時間をかけて門倉の人間になっていく。それはとても素敵なことです。主人は自分は鹿児島人だと言うんです。アイデンティティがはっきりしているから、どっしり構えてマイペース。私とは正反対ですが、そんなところに惹かれたのかもしれません。結婚をして、うまくバランスが取れるようになって、楽になりましたし

ソテーしたたまねぎとベーコンが発する ジュジュッという音に混じって、きれいな ソプラノボイスが心地よく耳に響く。穏や かな声を通して、タニアさんが自然体で生 きていることが伝わってくる。

「ICUに入学したことも自分が変わるきっかけになったと思います。転勤族だったので、それまでは周りに合わせて、間違いをしないように気を使って生きていました。特に日本の学校は異なる文化を嫌うところがあります。でも、ICUで自分と似たような環境で育った人に出会い、とても救われて明るくなりました」

料理で綴る思い

オーブンが温まってきた。ブラウンに変身したたまねぎとベーコンを、丸い型に広げたキッシュの生地のせる。仕上げにキャラウェイシードを少々。ヨーロッパで育まれた一品に、西アジアが原産の香辛料を加える。料理の世界でも、異文化のマリアージュが豊かな味わいをもたらすことに変わりはない。生地のレシピは、ロンドンで生活していたとき、パリ発祥の有名な料理学校であるル・コルドン・ブルーで習ったものをアレンジしたオリジナル。

「コルドン・ブルーで学んだ経験も手伝って、NHKのドイツ語会話の番組で料理を教えることになったんです。そして、自分にとって本当に意味があるものに気付きました。そこには私の物語があり、背景がある。仕事もドイツ料理に絞るようになって、とても楽になりました。自分に正直になれたんですね」

オーブンからはオレンジ色の光と、焼けたキッシュのこうばしい匂いがもれてくる。「いい香りですね。祖母が作ってくれた料理のことを思い出しました」と声を掛けると、こちらを振り返った表情には、心の内からじんわりと立ち上るような温かさをたたえた微笑みが浮かんでいた。

「料理は一番身近で、一番わかりやすく 伝統を伝えてくれるもの。匂い、味、風景。 手作りであればシンプルでいいんです。日 本人なら、ご飯と味噌汁とおかずがあって、調味料はお醤油とお味噌でいいじゃないで すか。レシピを見ないで作れるものなら簡 単でしょう。得意なものが3つもできれば、それをベースに料理をもっと楽しめるよう



になります」

そろそろ「きょうの料理」も終わりの時間が近づいてきた。熱々のキッシュを木のプレートに上げ、ナイフを入れて切り分けていく。少し冷ましてから一口食べると、しんなりしたたまねぎの甘さが口に広がった。タニアさんの家族に受け継がれてきた料理は、初めて食べるのになんだか懐かしい味がした。

門倉多仁亜

Kadokura, Tania (33 ID89)

1966年生まれ。ドイツ人の母、日本人の父を持ち、ドイツ、日本、アメリカで育つ。国際基督教大学卒業後、外資系証券会社を経て、夫の留学に伴ったロンドン在住時に「ル・コルドン・ブルー」で料理を学ぶ。NHK「ドイツ語会話」では2年間料理コーナーを担当。著書に、「タニアのドイツ式キッチン」、「タニアのドイツ式部屋づくり」(ともにソフトバンククリエイティブ) ほか多数。



よく晴れた冬の日、ドイツ料理を広く紹介している門倉多仁亜さんの家を訪ねた。 キッチンで料理するタニアさんの後ろ姿を見つめながら、彼女の話に耳を傾ける。 家族のこと、歩んできた道のこと。そこにはいつも手作りの温かい料理があった。



■レシピ ドイツ風たまねぎのキッシュ (Zwiebelkuchen)



【タルト生地】 小麦粉:180g 冷やしたバター:90g 塩:ひとつまみ 卵:1個

【具材】

ベーコン:100g たまねぎ:3個 卵:2個

サワークリーム:大さじ3杯

生クリーム:50g キャラウェイシード:少々

塩、こしょう

①オーブンを180度に予熱する。型にバターを ④ベーキングペーパーとアルミホイルを外して、 ぬり、小麦粉(タルト生地の材料とは別に)を はたく。

②小麦粉、塩、サイコロ状に切ったバターをフ ードプロセッサーに入れて撹拌する。バターの 固まりがなくなったら卵を加え、生地がまとま るくらいまで再び撹拌。

③生地をラップに包み、型よりひとまわり大き く、丸くのばす。ラップをはがし、型にしく。 全体にフォークでピケする。くっつかないよう にベーキングペーパーをしき、生地の上に重し 代わりのアルミホイルを重ね、オーブンで10 分焼く。

さらに5分ほど、生地がちょっと色づくくらい まで焼く。オーブンから取り出す。

⑤ベーコンを食べやすい大きさに切り、弱火で いためて油分を出す。1cm幅にスライスしたた まねぎに塩をふり、中火にかけ、蓋をして水分 を出す。水分が出たら蓋を外して、きつね色に なるまで20分ほどじっくりいためる。

⑥サワークリームを生クリームでのばし、割り ほぐした卵を加える。塩、こしょうで味を整える。 ⑦焼いた生地にいためたたまねぎとベーコンを 広げ、混ぜた卵を加える。最後にキャラウェイ シードをふりかけ、オーブンで20~30分焼く。

Wine&Music! ICU祭での同窓会活動報告

美しい秋、快晴のキャンパスで開催されたICU祭 同窓会の活動も大成功! 楽しい時間となりました

本文:樺島榮一郎(本誌)、写真:樺島榮一郎、岡田庄生(学生部担当副会長)

2012年11月3日(土)、4日(日)、例年通りICU祭が開催された。両日とも快晴に恵まれ、多くの人々が来場、年齢も学生に限らず子どもを連れた家族連れや年配の方など幅広く、年々、ICU祭の発展がうかがえる。同窓会は、アラムナイハウスと本館前のテントで活動を行った。アラムナイハウスの2階ラウンジでは、例年、カフェやパネル・ディスカッション等のイベントが行ってきたが、今年は、岡田庄生学生部担当副会長(ID03)、堀龍太理事(ID04)、斎藤菜々理事(ID08)らの若手が企画・運営の中心となり、「Wine&Music」をテーマに、同窓生の力を生かした斬新かつ魅力的な活動を行った。

飲食サービスでは、毎年恒例のICUワインや『Cadot』の竹内規子さん(ID83)セレクトによるワイン、塚田周平さん(P07に取材記事)経営の三軒茶屋のワインバー『アゲマキ』からは、抗生物質などを与えない沖縄産の「福幸豚」のリエットや、ミドリムシが入ったハンバーガーなどの販売があった。また、早稲田など都内に3店舗を構える油そばチェーン『武蔵野アブラ学会』の木村考宏さん(P06に取材記事)らは、油そば、担々麺の販売を行った。筆者は、油そばを食べたが、珍々亭や宝華の油そばとは、また違った感じでなかなか美味しかった。油そばは、予定より多くの多くの注文が殺到し、早々に売り切れになった。

イベントでは、3日(土)は、長沼茂太さん(ID03)をはじめとするクラシックオケメンバー、4日(日)、いわされいこさん(ID81)率いるフォークギターデュオ『☆アルビレオ☆』が各日3回づつ演奏を行い、多くの人が聞き入った。

また、3日には、リクエストの多かった、ICU高校の高柳昌久先生によるミニレクチャー「ICUキャンパス前史物語~中島飛行機時代~」を開催した。もちろん、毎年好評の佃隆さん(ID00)によるカイロプラクティック体験施術・健康教室や、石川美奈さん(ID86)、伏島幸子さん(ID81)、小出正三さん(ID86)、岡上啓太理事(ID05)ら、事業部の方々によるICU饅頭や、同窓会グッズの販売も行われた。

本館前のテントでは、佃さんによるチャリティ整体、富岡徹郎事業部担当副会長 (ID82) らによるストラックアウト、バスケットビンゴ、輪投げといった子ども縁日を開催した。子ども向けの企画はこれまでなかったものだが、時間によっては、行列ができるほどの人気を博した。

2日間で、ラウンジには約400人、子ども縁日には約200人が来場し、売上とともに過去最高を記録した。美しい音楽と食事で落ち着ける、久しぶりに友人に会え楽しかった、など来場者にも大変好評であった。来年も、魅力的な企画と、さらに多くの同窓生の来場が期待されるところである。



ラウンジ入り口に置かれた食事見本 (左上) ラウンジのキッズコーナーも意外な人気 (左中) 立ち見がでるほどの人が集まった、クラシックオケの演奏 (左下)

グラウンド芝生化の募金活動も行われた (右上) 観客への語りかけもあった☆アルビレオ☆の演奏 (右中) 行列もできた子ども縁日 (右下)

^{就職相談会報告} 厳しさ増す就活、学生達を応援

文:岡田庄生(学生部担当副会長) 写真:同窓会事務局



毎年恒例の同窓会による就職相談会を2012年12月3日(月)にアルカディア市ヶ谷にて開催した。今年も、33の企業・団体から、52人の同窓生にご参加頂いた。学生の参加人数は、会場のスペースとの兼ね合いで、例年通り先着130名としたが、初日から申し込みが殺到し、就職活動の厳しさを垣間見ることが出来た。

今年の新たな取り組みは、参加者全員が参加する自己PRコンテスト。学生達は、開催時間2時間のうち、最初の1時間半は好きな企業・団体のブースを訪問できるが、最後の30分は強制的にどこかのブースに割り振られる。各ブース4名程度の学生達が、各自持ち時間1分半で自己PRを行い、同窓生から順位付けとフィードバックをしてもらう試みだ。概要を発表した瞬間に、会場からは「ええーっ」という声が上がったが、始まってみればさすがICU生なのか、熱のこもった自己PRが各地で繰り広げられていた。

終了後、何人かの学生に感想を聞いてみると、「普通の説明会では聞けない話が聞けた」「自己PRは失敗したが、逆にそれが良かった」との声も。また、参加した同窓生からも、「今の時点としては、及第点。よく話せている」と評価する声も聞こえた。

● 参加企業・団体

平と能楽の永続

皆様のご長寿を祈念して 常磐木の

「もなかの高砂」を皆様にお届け申し上げます

才世阿弥による 格式の高い名曲で御座いま子

[製造] 日本アイ・ビー・エム、ソニー、パナソニック、住友 スリーエム、P&G、キリンピール、リコー、新日鐵住金、[金融] 三菱東京 UFJ銀行、[卸・小売] 三井物産、三菱商事、住友 商事、ユニクロ、高島屋、[新聞・出版] 朝日新聞社、ベネッセ・ コーポレーション、[放送・広告] 日本放送協会、電通、博報堂、

[情報・通信・運輸] 東日本旅客鉄道、商船三井、JAL、[情報・調査・専門サービス] アクセンチュア、アンダーソン・毛利・ 友常法律事務所、リクルート、デロイトトーマツコンサルティン グ、JTB、Google、[ホテル] 帝国ホテル、[教育] 東京大学、 [公務員] 外務省、厚生労働省、[非営利団体] 国際協力機構



ウェデイング・レセプション承ります

ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。 同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、 ぜひご相談・お問い合わせください。

東京ケータリング(株) ICU食堂

TEL&FAX 0422-33-3519 携帯 080-3117-3203 e-mail; tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

の聖代を寿ぐ「高砂」は「抑々是は肥後の国・・・」で『『高砂』を選び「もなかの 肥後 高砂や」を開店致しま熊「高砂」を選び「もなかの 肥後 高砂や」を開店致しま熊本市中央区河原町二番地に 日本の歴史と芸能に関わり

がから

肥後ニント

なかの

ICU Peace Bell奨学金 - 土屋隆一氏のスピーチ内容 —

7期生、1963年卒業の土屋でございます。 「ピースベル奨学金」第一期授受者の皆さん、卒業おめでとうございます。本当の親子ではありませんが、わが子の巣立ちを喜んでいるのと同じ心境であります。

私は、49年前に卒業しましたが、卒業式の当日は、きっと今の皆さんと同じように、社会人としても第一歩を踏み出す期待と緊張はあるにしても、学生生活を、十二分に満喫してきた充実感に包まれて、晴れやかに誇らしげに、しかし初々しく居たと思います。

4年前の第一回、皆さんの授与式の時に 橋本徹前理事長が、また本日北城恪太郎理 事長が「ピースベル奨学金」の成り立ち、 内容そして込められた期待についてお話さ れました。

屋上屋を重ねる気はありませんが、この 奨学金のアイディアを出し、募金を募り、 募金をした卒業生の想いを伝えさせていた だきます。

USニューズ&ワールド・リポートに、 年に一度、UniversityとCollegeのランクを 発表するコラム 「America's Best Colleges」があります。この編集委員はメ ル・エルフィンという有名な方ですが、こ のコラムに関連して、非常に示唆に富むこ とを言っています。彼はシラキューズ大学 の卒業生ですが「シラキューズは決して一 流校ではない。むしろ第二ランクの学校だ。 しかし、私はそこで素晴らしい教師・友人 に出会ったし、多くのことを学んだ。私に は12人の兄弟姉妹がいて、全員別々の13 の大学に通った。彼らを通して大学それぞ れに違った良さがあるということを知った。 しかし私にはシラキューズがベストであっ た。教育とは詰まるところ、誰と出会うか、 どんな仲間(Peer Group)と仲良くなれ るか。彼らから学び、また自分の方から教 えることもある」

今この年になって、私は彼が云わんとしたことがよく分かります。この美しいキャンパスで、私は大変レベルの高い教育を受けると共に、一生の宝物である素晴らしいPeer Groupに出会うことができました。この幸運を、私学のなかでは格段に安い授業料(確か国公立大学より若干高い授業料)で受けることが出来ました。

既にご承知のように、これは米国のクリ スチャンの募金を主とした支援のおかげで した。私達はこのご好意を片時も忘れるこ とはありませんでした。私達の仲間はあら ゆる分野・場所で、ある人は先頭に立ち、 ある人は地の塩として活発に活動し、社会 に貢献してきたことで、その好意の一部を お返ししてきたと自負しています。しかし、 それで十分だとは思ってはいませんでした。 私達は、私達が今度は後輩たちを支えるこ とで、初めてその責任と義務の一部を果た せるのではないかと考え、「ピースベル奨 学金」を設立しました。そういう意味で、 本日を迎えられたことは私達の喜びでもあ ります。皆さんは、「ピースベル奨学金」 に込められた願いに、活発な学生生活を送 り、優秀な成績を上げることで応えてくれ



ました。これから先、社会に出ても活躍してくれることと信じています。

しかし、「ピースベル奨学金」はこれで 完結する訳ではありません。今度は皆さん 方が我々から「松明を引き継ぐ」責任を果 たさなければなりません。このトーチリレーを続けることにより、最初に募金を募って下さった方々の想いに応えることが、初めて出来るのだと思っています。

今から数十年後には、この中の一人が、 ここに立って同じような挨拶をされている ことと信じています。

今日は本当におめでとうございました。

ドリコン2012結果発表 在校生の熱い想いに触れた最終審査

2012年9月30日、天気予報は夕方から台風。外は嵐の前の静けさの中、ドリコンの最終審査が開催されたアラムナイハウスは熱気で包まれた。 この日プレゼンテーションを行ったのは書類選考を通過した14団体。40年の歴史を持つWeekly GIANTS co.からヨーロッパー人自転車横断を企画する 3年生まで、新旧及び団体個人問わず、様々な企画者がそれぞれの熱意を同窓会にぶつけてくれた。

文:白石亜樹 (評議員・学生部) 写真:岡田庄生 (学生部担当副会長)

在校生の中にある、磨けば光る原石を発 見し共に磨くことを目的として、2005年 に同窓会学生部によって設立されたドリコ ン。毎年受賞団体には賞金を贈り、在校生 の学内外でのチャレンジを支援してきた。 2012年は、これまでのドリコンから少し 変わった点が3つある。1つめは、企画者 の「夢」や「挑戦」に、より審査の力点を 置いたこと。歴史のある団体であっても立 ち上げたばかりの企画であっても、応募者 が新たなチャレンジを行おうとしているか、 そしてそれが自己満足ではなく多くの人に 還元されるものになっているかが、今回の 審査の大きなポイントとなった。2つめの 変更点は、受賞企画に対するサポート内 容。「他ならぬ、同じキャンパスで大学時 代を過ごす後輩たちに何かもっとサポート 出来ないか」、そう考えた運営班は、総額 約100万円の賞金に加え、学生のニーズに 応じて企画へのアドバイスや協力が出来る 同窓生の紹介を行うことにした。もしかし たらこれを読んで下さっているあなたにも、 学生部からお願いが届くかもしれない。そ の時は、可愛い後輩のためにご協力をお願 いしたい。そして3つめは、一次審査を通 過した14団体すべての企画者と、1時間の 個別面談の場を新たに設けたこと。応募す る方々に同窓会のことやドリコンの趣旨を 理解してもらい、そして我々も応募者と企 画内容をより理解することができ、有益な

本当は全ての企画に賞を授与したかった ところだが、厳正なる審査の結果決定した

時間となった。

受賞企画は別表となった。また金賞を受賞 したICU Modern Music Societyからもコ メントを寄せてもらった。

Modern Music Societyより 受賞コメント(寄稿)

去る9月30日に行われましたドリームコンペティションにて、私たちModern Music Society(以下MMS)は金賞をいただきました。群馬県太田市の巨大ジャズフェスティバルへの出場と、ぐんま国際アカデミー(以下GKA)との交流は、MMSの活性化のみならずICUの知名度向上に抜群の貢献ができるはずだ!と信じて臨んだ今大会でした。その信念を詳しく伝えるために、敢えて今まで行っていたプレゼン中の演奏をしないという賭けにもでましたが、その結果として私たちの企画に賛同していただけたことは非常に嬉しかったです。

私たちの企画の第一ステップは、太田市市長との 面談とGKAの訪問でしたが、これらは既に6月中に 終えていました。よって、ICU祭におけるGKAとの 共演はとても円滑に進めることができたと思います。 11月4日にGKAジャズバンドのメンバーと顧問の Lowery先生がICUを訪れ、新D館地下室にて約1時 間のリハーサルを行いました。本番では、緊張した 面持ちながらもしっかりとした演奏を披露してくれ、 また、司会がGKA出演の経緯について触れると会 場は温かい拍手に包まれました。そして、目玉であ る共演曲。今回は、GKAのバンドにMMSのドラマ ーが出演するという形でしたが、バンドの「心臓部」 とも言われるドラマーとバンドのコラボレーション は素晴らしいものでした。指揮をしていたLowery 先生からも、称賛の言葉をいただくことができまし た。お互いのバンドの良い点を発見し認め合える、 とても良い機会となりました。

いよいよ、12月2日には太田市ジャズフェスティバルの出演が控えています。そこで再びGKAメンバーに会えることを楽しみにしています。



審査員を務めた同窓生、参加の学生、全員の記念撮影

金賞の ICU Modern Music Society

受賞企画一覧

金賞(賞金30万円)

・ICU Modern Music Society (企画概要:群馬の高校生と音楽を通じて交流したい) 銀賞(賞金20万円)

·S-L vis.

(企画概要:サービスラーニングを核としたコミュニティを作りたい)

・チャリバカ大学生のヨーロッパ横断旅

(企画概要:自転車で欧州を横断しながら聞き集めた夢を日本で伝えたい)

銅賞(賞金10万円)

・ラテンアメリカ音楽愛好会(LAMBS)

(企画概要:日本一のサンバパレードを作りたい)

·ICU 古楽研究会

(企画概要:ICUだからこそ触れられた古代西洋音楽の魅力を学外へももっと伝えたい)

·Weekly GIANTS co.

(企画概要:記事のアーカイブ化により40年のICUの歴史を多くの人の手に届けたい)

JICUF賞(賞金2,000ドル)

・チャリバカ大学生のヨーロッパ横断旅

(企画概要:自転車で欧州を横断しながら聞き集めた夢を日本で伝えたい)

KS賞(賞金5万円)

·ICU 古楽研究会

(企画概要:ICUだからこそ触れられた古代西洋音楽の魅力を学外へももっと伝えたい)

一月 People 神と人と……笑いに奉仕する!? 日本で唯一の寄席演芸女興行師

川崎 理沙 Kawasaki,Risa(47 ID03)

1981 (昭和56) 年、兵庫県西宮市出身。2003年、国際基督教 大学卒。(株) リクルートHRマーケティングでの営業職を経て、 VOGUE Nippon(現、VOGUE JAPAN)、GQ JAPAN(ともに コンデナスト・パブリケーションズ・ジャパン)のエディター、 nicola(新潮社)にてイベント企画/制作進行に携わる。現在、 日本で唯一の寄席演芸女興行師として、多数の落語会・寄席を 主宰。ウェブサイトhttp://the-itachi-ya.com/

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

文・写真:小林智世(本誌)



12月1日、落語家・五街道雲助師匠(写真右) の公演「雲助蔵出し ふたたび」を訪れた。ICU 卒業後、会社員生活を経て落語の興行師(落語コ ンシェルジュ)となった川崎理沙さんの取材のた めである。

和服姿で出迎えてくれた川崎さんは、会場であ る浅草見番の二階座敷に戻るなり、来場者に配る チラシの折りこみ作業を手伝い始めた。この日の 公演は川崎さん主催ではないが、付き合いのある 落語家の会はなるべく手伝うという。会場入りし たスタッフや出演者に挨拶しつつ、準備の手は止 めない。開場時間になりお客さんが入ってくると 受付に立ち、来場者が一段落したところで雲助師 匠のいる楽屋へ向かう。写真を撮らせていただき ながら雲助師匠に川崎さんの印象を尋ねると「い やぁ、鬼の川崎ですよ」との答え。しかし「そん なことないですよー」と川崎さんから突っ込まれ る師匠の顔はどこか楽しげだ。

公演が終了し、お客さんのお見送りを終えると、 川崎さんは地下鉄で上野の鈴本演芸場へ。自身が 企画した会のチラシを置いてもらうためだ。

ICU入学当時は、授業に出ない学生だったとい

う川崎さん。「寮生だったから『授業の10分前に 起きれば間に合う』と思って、結局起きなかった」 と笑う。しかし友達の影響で日舞を始めたり、劇 団を手伝ったりと活動的ではあった。そして二年 生の時に履修したラテン語の授業で西洋古典の面 白さに目覚めてからは、一転して勉強に打ち込み、 卒業後も大学院で学びたいと思うようになった。 しかし院の入試に失敗。浪人生活を送る中、川崎 さんは徐々に就職を考え始めた。もっと社会や会 社の仕組みを知りたいという思いから、様々な企 業の情報を発信しているリクルートの関連会社に 入社。アルバイト情報誌の広告営業として半年働 いた。その後、より興味が持てる仕事を求めて出 版社に転職し、「Vogue」「CQ」「nicola」といっ た雑誌の編集などに携わる。川崎さんが落語に出 会い、その面白さにのめり込んだのはこの時期の ことだった。公演のある日は会社を早く上がり、 時には九州まで遠征した。気付けば年収の半分が 落語観賞に費やされていたという。

数多くの公演を観る中で、実力があるのに埋も れている落語家たちの存在を知ったという川崎さ ん。「有名な落語家が何人も出る会に行ったら、

びっくりするくらいつまらなかったことがあっ て。でも私が面白いと思っている雲助師匠は全然 知られていない。悔しいと思った」。もう一つ、 公演を企画する興行師の存在の大きさも意識する ようになった。加藤さんという興行師が手掛ける 会では、同じ落語家の噺でも他の会で聴くより面 白くなることに気付いたのだ。川崎さんは、落語 家の力を最大限に引き出し、本当に面白い落語を 広めることを仕事にしたいと思うようになった。 そして会社を辞め、加藤さんに弟子入り。見習い として仕事を覚えたのち、2010年、興行師「い たちや女将」として独立した。現在は会の企画、 出演者との交渉、会場手配、チラシ作り、チケッ ト販売、ウェブ上での告知、スタッフの確保など をすべて一人で行い、ベテラン落語家の独演会か ら若手落語家・講談師など数人が出演する寄席ま で様々な興行を手掛けている。行き来のある落語 家の会を無償で手伝うなどの泥臭い付き合いに最 初は戸惑ったが、そうやって信頼関係を築くこと が仕事にも生きてくると分かり、今ではそれも生 活の一部になった。

川崎さんの企画の中には、出演者たちにとって 過酷なものもある。長い噺をやってほしいと持ち かけても「大変だから」と断られ、企画を練り直 しながら一年がかりで説得した公演もあるそう だ。しかし、落語家のやりやすさを優先させるこ とはしない。「人間は楽な方に流れていくものだ から、挑戦する機会がないと楽な噺しかしなくな る。やればできるのにやらないのはもったいな い」。落語家の力を引き出すことを本気で考えた 故の厳しさだ。

独立したばかりの頃、もっと有名な落語家に出 てもらえば儲かるよ、と言われたことがあったが、 自分が本当に面白いと思える人たちに光を当てた いという思いは変わらなかったそうだ。広告営業 時代の経験を生かし、公演チラシに広告を入れる などの工夫で興行ポリシーと採算の両立を模索し ている。「儲かるか儲からないか、で決められる ことではないよね。ICU卒だし」。損得を超えた 使命感に突き動かされ、落語の面白さを広めると いうミッションを背負った卒業生の、意味深な発 言である。

いたちや主催の公演

■あかぎ寄席 2013年3月31日(日)

出演/昔昔亭A太郎、立川こはる、神田松之丞、鏡味味千代(高橋麻帆:44 ID00)

開演/14:00 開場/13:30 料金/1.500円

会場/赤城神社 あかぎホール(参集殿) 東京都新宿区赤城元町1-10 東京メトロ東西線「神楽坂」駅1番出口徒歩1分/都営大江戸線「牛込神楽坂」駅 徒歩8分

■連続口演 五街道雲助「お富與三郎」/隅田川馬石「名人長二」 ※二本立て

	五街道雲助「お富與三郎」	隅田川馬石「名人長二」
2013年3月4日(月)	「発端」	「仏壇叩き」
5日(火)	「木更津」	「湯河原宿」
7日(木)	「玄冶店」	「谷中天龍院」
10日(日)	「稲荷堀」	「請地親殺し」
12日(火)	「茣蓙松」	「清兵衛縁切り」
17日(日)	「島抜け」	「お白州・大団円」

開演/18:45 開場/18:00

会場/お江戸日本橋亭 東京都中央区日本橋本町3丁目1-6 日本橋永谷ビル1F

東京メトロ「三越前」駅より徒歩2分(出口A10番)

料金/1日券(入替なし) ¥3,500/1日券(入替なし)学生¥2,000(当日のみ。要学生証)/通し券¥20,000 ※ご予約·お問い合わせ/いたちや Tel. 03-5809-0550 ウェブサイト http://the-itachi-ya.com/

リレーPEOPLE

インタビュー:清水裕(本誌)

第5回 石川裕美さん (37 ID93) フランス語通訳

同窓生から同窓生へバトンを渡していく木企画。 前回の荒井直さんから西洋古典を専門とした先 輩・後輩の間柄として石川さんをご紹介いただい た。現在は主にフランス語力を生かし舞台の通訳 として活躍されている。

ICU時代先生の紹介で音楽祭の通訳アルバイト を経験したことをきっかけに舞台の仕事を始める。 最初は制作寄りで音楽祭でも事務局で海外との出 演交渉などを行っていたが、だんだんと現場で必 要とされるようになっていった。「何も無いとこ ろから『舞台』という魔法のひとときが生まれる こと、そこにいる人々に魅せられました。」ギリ シャ悲劇などICUで学んだ分野と再び巡り会うこ ともあるという。ちょうどいま取り組んでいるの はフランス人と日本人が入り混ざって作るシェイ クスピアのロミオとジュリエット。「主に監督や 演出家は俳優に指示を出すことが重要で、そこに 通訳が必要となってきます。」もともとは技術系 の通訳であったがここ数年は演出家の通訳として 仕事をすることが主となり、作品づくりそのもの に関わっている。

通訳をすることが居場所

4歳までアメリカ、その後14歳までスイスのフ ランス語圏で育つ。幼少の頃から人前に出ること が苦手で、自ら発言するよりは人が言っているこ とを聞いたり読んだりして理解し、吸収すること が好きだった。学生時代にいろいろな種類の通訳 を経験。「自分が主張しないでも相手が何を欲し ているか理解して伝えることで居場所ができると いうあり方を知りました。通訳をすることが楽し いと感じ、何より気持ちが楽になっていることに 気がつきました。」表に出て、能動的な行動をす ることが大人になるということなのかと悩んだこ ともあったが、"通訳すればいい"という気づき が気分を解放させるような瞬間だったという。そ れでも「通訳はあくまでも人間同士のこと。人の 方へ自ら向かっていくことが苦手でも、人間が素 敵だと思うその気持ちを大事にしたい、人の能力 を認めたいと考えています。」とてもシャイだと いう石川さんが、通訳として人と距離を縮め、関 係を築き、紹介が紹介を呼んでこの分野で歩んで









縁の下の力持ちのお手伝いが好き

「舞台は、初日というひとつのゴールへ向かっ ていろいろな能力を持った人たちが一緒になって ものを作ります。みんな前向きで建設的です。幕 が開くという事実へ向け、何か問題があればじゃ あどうするかとすぐに別の案を考えたりと、マイ ナス思考ではしめきりには間に合わないのです。 そして一瞬で消えるもの、その時のために、違う 人間が互いの能力を認め合いながら共に何かを作 るということを楽しみながら取り組んでいる。そ れが素敵で格好いいと思います。魅力的な人のお 手伝いをしたいというモチベーションで20年近 くやって来ました。

違いを認めて楽しめるスタンス

「ICUでは自分の受け皿を広くしてもらえたと 感じています。いろんなものを理解したいし肯定 したい。舞台の仕事でも通訳として専門性を高め ることも大切だけれど、何かに限らず広くやって みたいという気持ちは忘れてはいけないと思いま す。」スイスという育った環境も影響している。4 つの公式言語があり移民が多かった。違って当然、

それに対して寛容で、だからこそ面白いという姿 勢が育まれた。「自分が持っていないものを持っ ている人が隣に入るほうが、お互いに豊かになる と思います。」二人でいれば2倍以上のものが生 まれる。いろいろなベクトルがあるから新しいも のが生まれるのは舞台でも言えることだ。

現在はSPACという静岡県が持つ劇団で仕事を している。コロンビア出身でフランスに渡りスイ スで活躍する演出家のもとで通訳をしているが、 石川さんご自身の様々な経験からこそ彼がどうい う風にものを見ているか想像出来ることがある。 思考回路が異なるため着地点も異なることもある が、理解したいという気持ちや一緒に作ろうとい う互いに開けた気持ちで臨んでいる。考えを促し 疑問を歓迎する演出で、関わる人みんなが幸せに なるような場だという。

今でも10年くらいぶりに出会う言葉があるそ う。「言葉でものを伝える職業として生きた日本 語の勉強をして豊かにしていきたい。そのために は人間も豊かにしていきたいと思っています。」 次回は近藤ゆかりさん(37 ID93)の予定です。

第6回 小林 牧人(生物学)

突撃! 気になるあの"メジャー"

今回取り上げるのは、数学メジャーに続く理系メジャー第2弾となる、生物学メジャー。

ICUの緑豊かなキャンパスは、人間、動物、植物と触れ合いながら生命の神秘を探求するのに絶好の環境といえます。 このメジャーで繰り広げられている学びを探るべく、小林牧人教授の野川での実習にお邪魔し、お話を伺いました。

文・写真 小林智世(本誌)



生物という切り口で、 科学的な考え方を浸透させたい

生物学メジャーが目指すのは、ICU生全体に生物学的・科学的な考え方を理解してもらえるよう働きかけ、広い視野で物事を捉える力の獲得を後押しすることです。また、理科系の学生に現代の生命科学および自然環境への専門的な理解を促すことも、生物学メジャーの使命です。

現代社会には、科学的なものの考え方、つまり観察や実験による検証を重んじる姿勢が十分に浸透していないと感じることがあります。例えば「多摩川のコイが減っている」「多摩川の水から環境ホルモンが検出された」という二つの出来事を受けて、まだ因果関係が立証されていないのに「コイが減ったのは環境ホルモンのせい」という報道がなされたりする。そういう短絡的な結論の導き方をおかしいと思える感覚を、あらゆる学生に身につけてほしいと思います。

私自身は、文系の学生でも取りやすい生物学の講義を模索し、2007年に「食品科学」という授業を立ち上げました。食品を化学的、生物学的側面や社会学的側面といった様々な角度から科学することが狙いで、文系の学生からも好評です。ICU開学以来初の応用科学の講義かと思われます。

講義室は学校、ラボは社会、 ラボから世界へ研究成果を発信

生物学が研究対象とするのは、あらゆる 動植物および微生物の生命現象です。生命 現象へのアプローチは、細胞・遺伝子・分 子といったミクロレベルでの考察=「ライ フサイエンス」と、個体・生態・環境といったマクロレベルでの考察=「ネイチャーサイエンス」の二つに大別できます。生物学メジャーの授業は両方のアプローチをカバーし、生命現象を様々な視点で捉える柔軟性を体得できるような学びを追求しています。

生物学メジャーのカリキュラムは、講義、セミナー、実習から成り立っています。研究室での実験や野外での実習は、教科書的な知識を実体験としての知識に昇華させる上で不可欠です。今日こうして卒論生と野川の生き物を調査しに来たことも、そういった方針の実践なわけです。

私の研究室では性行動(産卵行動)に基 づく魚類の保全をテーマに研究を行ってお り、魚類の産卵に適切な環境・不適切な環 境を解明して保全に役立てることを目指し ています。学内でのメダカの実験で、水流 が強い環境、卵を産み付ける水生植物のな い環境では産卵が抑制されることが分かり ました。河川改修ではこのようなことが起 こらないような配慮が必要です。一方、メ ダカが好きな環境を残す、ということも重 要です。現在、メダカがどのような所に卵 を産み付けるのか、いろいろな場所に行っ て観察をしています。今日は、野川のメダ カは冬にどこにいるのか、ということを調 べに来ましたが、川岸からメダカが見えな くても、水の中に入って網でメダカを捕ま えることができました。

1~3年生向けの授業内容は、主に講義、 ICU内での実験、野外での実習です。4年 生になると学生たちは卒論担当教授の研究 室に所属し、卒論のための研究が大きなウ エイトを占めるようになります。また、4年生は研究室が毎週1~2回開くセミナーにも出席し、科学論文の紹介や卒業研究の成果報告を行います。1~3年生はどちらかというと教わる立場ですが、研究室に入った4年生に対しては、組織の一員としてプロの研究者とともに研究を行うラボメンバーとしての自覚、どうすればよい研究ができるのか主体的に考える思考を求めています。

学生は全員、卒論を英語で書くのがルー ル。学部の学生であっても、教員と共に研 究して得られた価値ある知見を世界に発信 することが求められています。ビートルズ が20代で音楽を世界に発信したように、 生物学メジャーの学生は20代で自分の研 究成果を世界に発信できるんです。それが 理科系の研究の楽しさです。ですから理科 系の卒論は単なる練習課題ではなく、研究 そのものです。実際に、昨年私の研究室で キンギョの性行動について研究した学生の 卒論は、今年になって国際科学雑誌に掲載 されました(Gen Comp Endocrinol)。彼は、 昼間は実験、夕方はアメリカンフットボー ルの練習をしていましたが、1年間で投稿 論文として十分な量、質のデータを出しま した。その他、卒論生が3年間にわたって 引き継いで行った野生メダカの研究および メダカの性行動研究も、それぞれ今年国内 の科学雑誌に掲載されました(日本水産学 会誌、日本魚類学雑誌)。学会誌に載らな くても、毎年卒論生は自分の研究を国内学 会で、大学院生は国際学会でポスター発表 し、プロの研究の世界を体験します。

小林 牧人

Kobayashi, Makito

1956年生まれ。1981年東京大学農学部水産学科卒。1986年東京大学大学院農学系研究科水産学専門課程博士課程修了。カナダ・アルバータ大学理学部動物学科研究員、東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻、助手、助教授を経て、2002年に国際基督教大学教養学部に着任。現在、同学部アーツ・サイエン、学科生命科学デパートメント教授。1998年に日本動物学会奨 の賞。2010年には日本水産学会水産学進歩賞を受賞するとともに、天皇陛下へのご進講を行う。研究テーマは、魚類の性行動の内分 泌調節、魚類組み換えホルモンの水産増養殖への応用および性行動に基づく魚類の保全研究。ICUアメフト部の顧問としても活躍。

学生よ、もっと外へ!

学生には、自分のやりたいことだけを最 初から追求するのではなく、まずは地道に 基礎的なことを身につける努力をしてほし いと思っています。最初から他人と異なる ことを求める学生は伸びません。ある程度 努力すると、個性は必ず出てくるものです。 また、外へ目を向けてほしいとも感じてい ます(学外、他大学、外国、自然など)。 内向きになるなという意味でも、屋外で自 然と戯れる経験をしてほしいという意味で も、です。自然を自分と繋がっているもの として捉えられれば、身近な川から魚が減 っているといった問題にも真剣に向き合う ようになるでしょう。近くの川で魚をとっ て遊ぶとか、自然の中にいる生き物に触れ る機会を持つことを勧めたい。そのために も、文系の学生も参加できる野外実習を作 れないか模索しています。

生物学メジャーのデータ

●主なクラス(2012 年現在)

生化学 I·II 細胞生物学

動物生理学 |・||

植物生理学 I・II

微生物学 生物学野外実習

生物学臨海実習など

●担当教員

溝口剛 Mizoguchi, Tsuyoshi (専門分野:植物概日リズム) 小林牧人 Kobayashi, Makito

(専門分野: 魚類の性行動の内分泌調節)

上遠岳彦 Kamito, Takehiko

(専門分野:節足動物の内分泌調節、野生動物の生態調査)

リッジ・ロベルト Ridge, Robert W.

(専門分野:植物細胞の微小管の動態)

布柴達男 Nunoshiba, Tatsuo

(専門分野:大腸菌、高度好熱菌、出芽酵母

のゲノム情報維持機構) 小瀬博之 Kose, Hirovuki

(専門分野:キイロショウジョウバエの精子 形成及び糖代謝の分子生物学)

● その他の生物学メジャーの最近のできごと 2012 年加藤義臣名誉教授 日本蝶類学会林 賞受賞

2012 年風間晴子名誉教授 日本植物学会特別党

2012 年勝見允行名誉教授 瑞宝中綬章受章



写真/大間哲(34 ID90)

文部科学省平成24年度「グロ ーバル人材育成推進事業」に 本学の取組が採択

文部科学省平成24年度「グローバル人材育成 推進事業」の選定結果が9月24日に発表され、 ICUが申請した取組が採択されました。申請件数 は129校152件あり、審査の結果、42件42校(採 択率約27.6パーセント)が採択されました。 この「グローバル人材育成推進事業」は、若い世

代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争 力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グロ ーバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の 育成を図るため、大学教育のグローバル化のため の体制整備を推進することを目的としています (文部科学省ホームページより)。

第二次世界大戦への深い反省から、自由な民主 日本を築き、人類社会の平和的発展に寄与する人 材の育成を目指し、1953年に献学されたICUは、 その後60年間にわたり一貫して、国家の枠を越 えて設立された大学として、グローバル人材を育 成しています。昨今では、人材育成の教育理念を 共有する5大学(ICU、国際教養大学、上智大学、 立命館アジア太平洋大学、早稲田大学)で連携協 定を結び、意見交換を行ったり、学生・教職員交 流の機会促進を図ったりするなどしています。

東日本大震災や原子力発電所事故でも示された ように、「社会全体の知の向上を図るため、自己 の知を専門外の人々にわかりやすく翻案できる、 優れた知の表現者の養成を目指す必要がある」と して、今回採択された取組において、国際的に活 躍する人材を育むための本学の教育目標を、さら に高い水準で実現することを目的とします。

具体的には、(1)英語運用能力のさらなる伸長、 (2) 英語開講専門科目履修を通じた情報発信能 カ(ライティング)の涵養、(3)教育目標達成 の具体的検証としての単位取得を伴う海外留学、 の3点を推進します。

(1) においては、2012年度によりきめ細かなプ ログラムとなった英語教育プログラム履修学生 に、諸外国大学の留学許可判定に使用される革語 運用能力試験の受験を課すことで、プログラムの 目標達成度を確認すると同時に、留学への動機付 けを与えます。

(2) においては、「学術論文を英語で正しく書 く能力」を養成するため、英語で開講される専門 科目の中に、英文レポート作成の指導を手厚く行 う科目を設置し、この科目には、専門科目担当教 員の他に、学生の英文レポート作成を支援するチ ューターを置きます。

(3) においては、「学生が真のグローバル人材 として成長したか否かは、海外大学で現地学生と 共に授業を履修し、議論に参加し、レポートを提 出して成績の評価を受けるというプロセスにより 確認できる」として、単位取得を伴う海外留学を 行う学生を増やします。現在でも全学生の40% 超が単位互換を伴う国際教育交流プログラムに参 加していますが、プログラムの内容・時期・期間 を多様化し、学生が参加しやすい環境を整備しま

このプログラムの進捗については、ICUホーム ページなどでお知らせします。

文部科学省 平成24年度「グローバル人材育成 推進事業 | の採択事業の決定について

URL: http://www.mext.go.jp/b_menu/ houdou/24/09/1326068.htm

福島香南さん(3年)日仏会館 フランス語コンクール入賞



公益財団法人日仏会館が主催する「第5回日仏 会館フランス語コンクール」で11月23日(金)、 福島香南さん(教養学部アーツ・サイエンス学科 3年)が、奨励賞・日本ロレアル賞を受賞しました。 本コンクールは、2008年に日仏交流150周年を記 念して始まったスピーチ・コンテスト。今年は 57名の応募があり、書類選老を通過した15人が、 今年のテーマ「なぜフランス語を学ぶのか?」に ついてスピーチしました。福島さんは、フランス 語に興味をもったきっかけ、フランス留学での挫 折、自身のメジャーである人類学とフランス語と の関連について発表しました。

福島さんが、本格的にフランス語を勉強し始め

たのは、2年次に履修したフランス語の授業。そ の後も毎学期フランス語の授業を履修したほか、 夏期留学プログラムでフランス留学に挑戦した り、日仏学生フォーラム*へ参加したりしました。 また、今回のコンテストへの参加を決めた後は、 教員やTA(ティーチングアシスタント)に発音 を聞いてもらう、フランス語を口ずさみながら通 学する、自分の発音を録音し確認するなどして備 えたそうです。

インタビューに答えた福島さんは、「受賞はこれ までの勉強の結果なので、すごくうれしい。これ からも勉強を継続して、次はより上位を目指しま す」と話しました。

*日仏学生フォーラム

日仏学生フォーラム(Forum Franco-Japonais des Etudiants / FFJE)は、学生の交流を通じて 日本とフランスの相互理解を深め、日仏の架け橋 になる人材を育成するため設立。公益財団法人日 仏会館のもと、日仏の学生が活動している。

ICU 3rd-Year Student Kana Fukushima Receives Award in French Speech Competition

On Friday, 23 November, Kana Fukushima, a third-year student of the College of Liberal Arts' Division of Arts and Sciences, was awarded the Prix Nihon I' Oréal of the prix d' encouragement awards at the Maison Franco-Japonaise foundation's Fifth concours d'

The award is part of a speech contest started in 2008 on the occasion of the 150th anniversary of Franco-Japanese relations. This year 57 applicants submitted compositions. from which 15 students were selected to present their work as speeches. The theme was "Pourquoi apprendre le français?" ("Why study French?") . Ms. Fukushima wrote about her interest in French stemming from setbacks she had during study abroad in France and the relationship the language has with her

Ms. Fukushima began studying French in earnest in her second year at ICU. In addition to taking courses in French each term, she also participated in a summer program in France and participated in the foundation's FrancoJapanese student forum (The Forum Franco-Japonais des Etudiants*). After deciding to participate in the contest, she prepared by reciting French while commuting to school, having her professor and TA check her pronunciation, and recording and checking her pronunciation herself.

Speaking with ICU's PR Office, Ms. Fukushima said, "I'm very happy as this award shows the results of my studies so far. I'd like to keep studying and win higher honors next time."

日比谷潤子学長 国内外の同窓会支部を訪問



左から東海支部、Los Angels支部, Washington, D.C.支部, 北陸支部

2012年4月に就任した日比谷潤子学長は、出張 予定に合わせて、国内外の同窓会支部を訪問して います。同学長は「できるだけ多くの卒業生の方々 にお会いし、大学の現状をお伝えしたり、みなさ まのご意見をお聞きしたりしたいと願っておりま す」と、話しています。今後も、同窓会支部との 交流を活発に行う予定です。訪問先の皆様、どう ぞよろしくお願いいたします。

これまでに訪問した同窓会支部と今後の予定

- J.P.モルガン ICU Reunion (2012年6月5日)
- 東海支部(8月30日)日本私立大学連盟で講演
- ロサンゼルス支部(9月12日)JICUF理事会出
- ワシントンD. C. 支部(9月14日) 同上
- ロンドン支部(11月16日) "Experience Japan Exhibition 2012"(留学フェア) 出席時の
- ■北陸支部(11月10日)ご父母対象オープンキ ャンパス開催時の参加
- 第二回Marunouchi Style (12月12日) 東京・ 丸の内エリア勤務の卒業生を中心とした交流会に 参加
- ボストン支部(2013年2月28日) JICUF理事 会出席時に参加予定

本学名誉教授が相次ぎ学会賞受賞



2012年9月16日 (日)、第9回日本植物学会賞の 授賞式が行われ、本学風間晴子名誉教授が日本植 物学会賞特別賞を受賞した。

今回の受賞は、風間教授の長年にわたるリベラル アーツ教育による研究者育成の功績が認められた

具体的には、現在、日本の私立大学からの大学 院への進学率が5%に満たないなか、風間名誉教 授に卒業論文指導を受けた学生の約8割が国内外 の大学院に進学し、その約3割が学位(博士号) を取得していること、またその後、多くの研究者 が、国内外の研究所のPrincipal Investigator(研 究室の責任者) や国立大学の准教授として活躍し ていることが、リベラルアーツと風間名誉教授の 教育による成果として高く評価された。

また、12月15日(土)、2012年度日本蝶類学会(テングアゲハ) 林賞を加藤義臣名誉教授が受賞した。「チョウの生物学」(東京大学出版会,2005年)を含む出版による教育普及活動およびキチョウ類の研究を含む数多くの生理・生態・分類学的研究を通して、蝶類学研究に大きく貢献したことが高く評価された。

当日、加藤名誉教授は「チョウの謎を追い続けた 半生: なぜキチョウが2種となったのか」と題し た学会賞受賞記念特別講演を行った。

ICU Professors Emeriti Receive Awards

On 16 September, 2012, the ninth meeting of the Botanical Society of Japan held an award ceremony and presented ICU Professor Emerita Haruko Kazama with an award with special distinction

The award recognizes Professor Kazama's longstanding achievements in the education of researchers through liberal arts education. Although today less that 5% of graduates from Japanese private universities go on to seek higher degrees, in the case of Professor Kazama's students, approximately 80% went on to study at graduate schools in Japan and overseas and of those about 30% obtained Ph.D. The society went on to recognize her great contributions to education by observing that many of her students have gone on to serve as heads of research centers in Japan and overseas or become associate professors at national universities in Japan.

On 15 December, 2012, ICU Professor Emeritus Yoshiomi Kato was presented with the 2012 Hayashi Prize by Butterfly Society of Japan (Teinopalpus). The award recognizes Professor Kato's various contributions to butterfly research, including a publication of "Biology of the Butterflies" (University of Tokyo Press, 2005) and physiological, ecological and taxonomical studies of Eurema species will be remembered forever in the history of Lepidopterology.

Professor Kato gave a special lecture to commemorate the award. The lecture took as its theme "My life to research the butterflies: Why was the species of Eurema hecabe divided into two good species?"

ICU・上智大学共催講演会 「日本からの発信、日本への紹介 ~文化による国際理解」開催

2012年12月10日 (月)、ICU・上智大学共催講演会「日本からの発信、日本への紹介~文化による国際理解」が、上智大学にて行われた。 本講演会は、共に世界で活躍する人材を育んできたICUと上智大学が、両大学同窓会の協力を得て共催したもの。

当日は、まずICUの卒業生で株式会社テレビマンユニオン会長ゼネラルディレクター重延浩さんが基調講演を行った。重延さんは、本学卒業後、東京放送に入社。その後、テレビ制作会社テレビマンユニオンの設立に参加し、これまでTBS「世界ふしぎ発見!」をはじめとする著名な番組を多くプロデュースしてきた。「21世紀のメディア論-デジタルという世界は、約500年前のルネサンス時代以来の大きな社会運動、社会革命かもしれない。この大きな社会の変動の中で、いかにヒューマニズムを表現できるのか」が自身の大きなテーマであり、その答えをこれからも探していくと語った。

続いて基調講演を行った、上智大学の卒業生で 株式会社ナビタイム代表取締役社長大西啓介さん は、上智大学に在学中から経路探索の研究を行い、 その後株式会社大西熱学での勤務を経て、起業し た。「大学での研究からの起業とナビタイムの世 界戦略について」をテーマに、会社設立から現在 までの経緯を説明し、今後の世界戦略についても 語った。

基調講演の後は、本学森本あんり学務副学長をモデレーターとした対談が行われた。「起業者からみた企業・組織で働く意味」「自分の使命感・信念を貫くためには」「企業が求めるグローバル人材とは」などの問いのほか、参加学生からも「日本の優れた点は」「自分の進むべき道を決めるには、学生時代にどのような活動をすれば、そのヒントが得られるのか」になど質問があった。

講演者の2人は、「自分の使命は、成し遂げるまで続けること」「失敗・成功は全て課程。その課程の先によりよいものを描けるかが重要」など、自身の豊富な経験からそれぞれの質問に回答したほか、「今の学生は能力があるので、もっと積極的に前に出て欲しい」、「4年間の大学生活、積極的に様々なことを経験して欲しい」と参加学生たちに温かい言葉を送った。

ICU-Sophia Cosponsored Lecture "Sent from Japan, Introduced to Japan – International Understanding Through Culture"

ICU and Sophia University held the open lecture "Sent from Japan, Introduced to Japan - International Understanding Through Culture" at the Sophia campus. The event was cosponsored by the two universities and held on Monday, 10 December 2012.

The lecture was made possible through the cooperation of the alumni associations of the two universities, both of which endeavor to cultivate superlative graduates who can work together at the international level.

The first speaker was Yutaka Shigenobu, ICU graduate and general director of the company TV Man Union. After graduating from ICU, Mr. Shigenobu entered TBS (the Tokyo Broadcasting System). Subsequently, he was involved in the establishment of the production company TV Man Union and created numerous well-known programs such as TBS's "Discovery of the World' s Mysteries." His talk, titled "Studying Media in the 21st Century: Digital Humanism," dealt with one of the great themes of his own life, namely, that "the 500year movement towards a digital world since the time of the Renaissance has been a social revolution. Within the context of such a massive social shift, how is it possible to express humanism?" He added that this is a question to which he continues to search for an answer.

Keisuke Onishi, Sophia University alumnus and CEO of NAVITIME JAPAN Co., Ltd. presented the event's second talk. While a student at Sophia, Mr. Onishi conducted research into route search engines and started his own business after working at Onishi Netsugaku. He spoke on the topic of "starting a business based on research done at university" and "Navitime's global strategy." Mr. Onishi explained how his company grew from its inception to its current position and the company's future strategies on the global market.

After these two talks, the floor was opened to questions, with Professor Anri Morimoto, Vice President of Academic Affairs at ICU, as moderator. Questions from the audience touched on such topics as the meaning of work at companies and other organizations from the entrepreneur's perspective, sticking to your faith and sense of mission, and the kind of internationally competent graduates companies are looking for. Students asked such questions as what Japan's strengths are and what hints could the speakers give about activities to be involved in at university in order to help figure

out their path in life.

The speakers answered from their diverse experience, saying, for example, "my mission is to continue until a job is completed," and, "failure and success are both matters of process; the important point is whether after that process you are able to create something better." With encouraging words for the students in attendance, they said "students today are talented so I hope you will be more proactive about coming forward and taking action," and, "I hope that over your four years at school you will actively seek out diverse experiences."

■「大学のページ」に関する問い合わせは、ICU パブリックリレーションズ・オフィスまで。

If you would like to inquire regarding the pages "News from the University", please contact Public Relations Office.

Tel: 0422-33-3040 Email: pro@icu.ac.jp http://www.icu.ac.jp

訃報 Obituary

佐波正一名誉人文学博士 (本法人元理事長) 2012年9月10日逝去。93歳。

本法人評議員、理事、副理事長を歴任し、1992 年から2004年までの12年にわたり理事長を務めました。2009年には、長年の本学への貢献に対し、 名誉人文博士の称号を授与されました。

Honorary Doctor of Letters Shoichi Saba, former Chair of ICU's Board of Trustees, passed away on September 10, 2012. He served as Chairman for 12 years from 1992 to 2004.

山口京子(一般職員、前教務部長)

12月15日逝去。52歳。

Kyoko Yamaguchi, General Staff, Former Director of Educational Affairs Division, passed away on December 15, 2012.

EVENT

湯浅八郎記念館 特別展のお知らせ

■ 特別展「コンビニ・これって民藝?」

Counter Culture —Today's Corner Store and the Elements of Mingei

湯浅八郎記念館が、本学ホワイトロウ准教授 (ICU)とともに企画する特別展。

文化人類学の視点からコンビニを分析し、現代 社会におけるコンビニのあり方と民藝の接点を考 える企画です。

本展では、普段コンビニの中で埋没して目に止まらない、我々にとって当たり前の品々に焦点を 当て、紹介します。

会期:2013年4月9日(火) ~7月5日(金) 公開講座:開催予定(詳細は未定)

■ 問い合わせ先

国際基督教大学 博物館 湯浅八郎記念館 Tel: 0422-33-3340 Fax: 0422-33-3503 Email: museum-office@icu.ac.jp http://subsite.icu.ac.jp/yuasa_museum

宗教音楽センター 春のオルガン演奏会中止のお知らせ

大学礼拝堂の冷房工事実施に伴い、2013年4月から6月までの期間中、オルガン演奏会は行いません。

同年10月以降の演奏会のご案内は、宗教音楽センター・ホームページをご覧下さい。

■ 問い合わせ先

国際基督教大学 宗教音楽センター

Tel: 0422-33-3330

Email: smc@icu.ac.ip

http://subsite.icu.ac.jp/smc/w

夏期日本語教育 留学生ホストファミリー募集

期間: 2013年7月3日(水)~8月16日(金) 条件: 個室(4.5畳以上)、勉強机、スタンド、寝具、風 呂、食事(朝/タ+週末は3食の場合も)、三鷹市周 辺で通学時間1時間以内。

謝礼:10万円

■ 問い合わせ先

国際基督教大学 日本語教育研究センター事務室 Tel: 0422-33-3501

Email: scj@icu.ac.jp

ICU OPEN CAMPUS 2013年度 日程決定

高校生とそのご父母を対象とするイベント「オープンキャンパス」は2012年度、次の日程で開催されます。4月と9月の両入学生が対象です。

2013年7月20日(土)、8月10日(土)、17日(土)、 2014年3月29日(土)(すべて土曜日、10:00~ 16:00、予約不要)

なお、夏期オープンキャンパスは、施設改修等の 理由により入場者数制限を行います。

詳細については、以下のホームページにてご確認 ください。

http://subsite.icu.ac.jp/prc/webcampus/ events/opencampus_01.html

■ 問い合わせ先

国際基督教大学 アドミッションズ・センター Tel: 0422-33-3038

Fax: 0422-33-3635

Email: admissions-center@icu.ac.jp





よって、展示物をすべて写真で紹介し、OB紹介の 掲示文章も読むことができます。学生やOBの展示 作品の他、アート分野のOB紹介では、今回連絡を 取れ掲載を同意された20名程の方のホームページ や活動の一覧表なども見られます。展示内容の閲覧 方法については同窓会のホームページをご欄下さい。 美術部OB会 連絡担当 24期(ID80) 村田広平 bijutsubu-chapter@icualumni.com

国際基督教大学和太鼓部 2013年春公演のご案内



国際基督教大学和太鼓部は、2013年春公演「音巴 ーおとのは一」を開催致します。皆様のご来場を心 よりお待ちしております。

公演概要

【日時】: 2012年3月23日(土) 12:00 開場

12:30 開演/17:00 開場 17:30 開演

【上演時間】:約2時間 【会場】:浅草公会堂

【チケット】: 一般 1800 円 (前売り 1500 円) 学生 1000 円 (前売り 700 円)

【お問い合わせ】: 電話: 080-3500-1727 E-mail: icuwadaiko13.otonoha@gmail.com

【主催】:国際基督教大学和太鼓部

【協賛】: 鼓武士

公演最新情報は公式HPをご覧下さい。

http://icuwadaiko.carismask.net/



北陸支部懇親会報告

文:中谷智一(23 ID79) 栃内文彦(38 ID94)



写真/大間 哲(34 ID90)

国際基督教大学心理学研究室創設55周年記念文集刊行のためにご協力下さった卒業生・修了生と同窓会役員の皆さまへお礼とご報告

ICU 名誉教授 星野 命



去る2010年1月に私ども両名が、上記文集の刊行を思いつき、25年前(30周年時)に刊行された『こころの面影』に倣って、卒業生と大学院修了生ひとりびとりの在学中の思い出やエピソード、またその後の社会生活において心理学の学習がどのように役立ったかなどの手記を寄稿して下さるようにお願いしました。その結果、1957年3月以降のICUの草創期と激動期、研究室の充実期と発展期を通じて53名の方々からの投稿が得られ、それに旧教職員と現教員「それぞれの所感」16篇を加え、資料として専修卒業生の「名簿」と「年譜」を付して、2012年3月に『こころの面影』(2011年版・第1集との合本)600部を刊行

することができました。その編集に際しては、O.G.とO.B.8名のボランティアのご協力があり、146名の卒業生・修了生・旧教員から総額165万5千円の寄付金が寄せられ、これによって印刷費と送本代すべてを賄うことができた上に、収支差額の約8万円を『ICU献学60周年記念募金』に贈与することができました。ここに関係者の皆さまに心からの感謝と企画成功のご報告を申し上げます。なお、去る6月23日に、ICUの「ダイアログハウス」内の食堂で『O.G.・O.B. の会兼祝宴』を開催し、来賓10名、現教員6名と卒業生28名の参加を得て盛会であったことを申し添えます。

上海支部 忘年会兼送別会開催

文:岸原 豊明 (29 ID85)



12/9(日)に上海市内の老舗上海料理店で、忘年 会兼送別会を開催しました。

参加者は、近々上海を離れる予定の甲斐章太郎 さん(ID86)、菅野真子さん(ID08)を含め、ID84か ら08までの計8名。美味しい上海料理と紹興酒に 舌鼓を打ちながら、世代を超えた「ばか山談義」 に花が咲きました。

日中関係の今後の動向は少し気になるところですが、上海の日常生活は通常通りで、皆元気にやっていますのでご心配なく。

なお現在把握している上海支部メンバーは18 名程度ですが、上海駐在のOB·OGはもっといる と思いますので、もし情報等があればご連絡下さ い。

shanghai-chapter@icualumni.com

インターネット上の ICU祭企画展示のお知らせ ICU祭での学生・OB合同美術展示と アート分野のICU出身者紹介)

文: 村田広平 (24 ID80)



美術部OB会と学生サークルのICUアートプロジェクトは、昨年秋のICU祭で共同の展示会を行い、作品展示と、アート分野のICU出身者紹介展示を行いました。今回はインターネットの活用に

2012年11月10日(土)、ICU同窓会北陸支部は約3年ぶりに支部懇親会を開催いたしました。今回は、ICUの「オープンキャンパス(金沢)」と日程および会場を合わせたことで、北陸支部会員25名(ICUでかつて教鞭をとられ現在は金沢ご在住の星野命先生を含む)だけでなく、日比谷潤子学長はじめ8名の教職員および現役の学生さんにもご参加頂くことができました。さらに同窓会長・副会長・理事等5名も加わり、総勢38名が18時から賑やかに熱い二時間を過ごしました。

北陸支部会員の参加者は御年85歳の星野先生を筆頭に23期(ID79)から55期(同11)までと幅広く、今回は特に若い世代との交流が深まったのではと感じます。一方中年?世代からは、今の「東京・金持ち・女子」という母校のイメージに大いに異論あり、「地方・(貧乏?)・男子」の復権を!と意気軒高な声が上がりました。

会の終わりに8年間支部事務局の労をお取りいただいた栃内文彦氏(38期)への感謝の花束贈呈と次期事務局岩本歩弓さん(42期)・内田健介さん(同)の挨拶があり、中谷智一(23期)支部長以下かつて共に歌ったグリークラブメンバーが偶然にも全パート揃ったことで、彼(女)らによるリードのもと、ICU Songの合唱で〆となりました。新しい体制でICU関係者の親睦をいっそう深めるべく、活動がより活発化されることが期待されます。

ID84セクションB リユニオン報告

文:氏原浩一(28 ID84)



卒業年以来、夏季五輪年毎に行われているID84の SecBリユニオンが今年も11月10日に赤坂のイル・ サーレで行われ29人中14名の出席がありました。遠 くはハワイ、高松からも参加があり盛況でした。 皆50歳を超えてきましたが、女性はますます美しく、 男性はますます疲れて?いました。

84は25周年やってないからぜひ30周年を、など話題 も出て16時開始から2次会終了の21時まで楽しい時間を過ごしました。

ICUキャンパス自然環境シンポジウム報告

文:松宮丞二(3)



11月24日午後2時 - 5時まで理学館N332講義室で大学、同窓会、やんもり主催のICUキャンパス自然環境シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは3期の有志である「ICU森の番人」が企画・運営しています。ICU森の番人は2001年10月に3期生がICUキャンパスでクラス会を開いた時に庄司太郎ICU名誉教授のご指導でキャンパスツアーを行い、それを機に自然保護の下にICUのキャンパスを考えるグループを結成したものです。

それ以来毎年1回ICU卒業生、教員を講師として キャンパスの自然を考える勉強会と近郊の自然を訪 ねるミニツアーも行ってきました。

今年の勉強会は10回目の節目にあたるところから、環境研究メジャーのコーディネーターである生命科学デパートメント小林牧人教授(生物学メジャー、環境研究メジャー担当)のご協力を得てシンポジウムを開催することとし、庄司太郎先生を基調講演に迎えるとともに、パネルディスカッションをすることにしました。

参加者は卒業生を中心に55名で、主催者を代表して森本あんり学務副学長の挨拶から始まりました。 基調講演の庄司太郎名誉教授はランの人工繁殖、北海道礼文島にしか生息しない絶滅危惧種のレブンアツモリソウの人工繁殖と盗掘からの保護の話、ICUキャンパス植物園構想の話、自然保護には貴重な個体を保護するという立場と生態系を保護するという二つの立場があること、後継者の養成が大事であることなどを指摘されました。

続いて学生の環境グループである「やんもり」の活動報告が代表の木村修平さんからありました。

コーヒーブレイクの後小林教授の司会で5人のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。パネリストは石崎伸次氏(大成建設㈱環境本部環境計画・アセスメント室)樺島榮一郎氏(相模女子大学専任講師、同窓会理事、ICUキャンパスマスタープラン委員会同窓会代表、ICU37期卒1997年大学院修了)、上遠岳彦氏(生命科学デパートメント講師、生物学メジャー・環境研究メジャー担当)、東梅貞義氏(WWFジャパン自然保護室長、ICU非常勤講師「環境保全」担当ICU33期卒)、西尾隆氏(ICU教養学部長、法学・公共政策デパートメント教授、公共政策メジャー担当、ICU22期卒1980年、1986年大学院修了)でした。

各パネリストの発言要旨は以下の通りです。 最初に石崎氏からはダイアログハウス、食堂、欅寮 の建設に際して植物調査を行い、希少植物 (キンラン、マヤラン、イカリソウ、エビネなど) の保全、 また里山的環境と奥山的環境が存在するキャンパス

ン、マヤラン、イカリソウ、エビネなど)の保全、 また里山的環境と奥山的環境が存在するキャンパス の長期的視点に立った環境保全計画の策定の必要が あることを指摘されました。

西尾氏からはキャンパスの土地利用の歴史と新寮建設の基本方針として現存の秩序を維持し、新規開発は行わず、現存施設の建て替え再編によるものとし、総合的な改築計画を立案すべきであり、キャンパスマスタープランへの参加と合意形成の弱さと開発の手続きの明確化の必要性が指摘されました。

上遠氏からはダイアログハウスと新寮建設の経緯について、工事計画に事前の環境評価がないことから、 申し入れ実施されることになったが、工事を遅らせ るわけにはいかないとのことで、工事が始まったあ とから環境調査が行われ、希少種のエリアが掘り返されたこと、キャンパスの自然環境を維持していくために具体的な手続きの確立が必要であることなどを述べられました。

東梅氏は環境メジャーの「環境保全」担当の立場から教育としての利用と自然としての価値を認識することが重要で、授業ではキャンパスに対する学生の80件程の活動実行計画書があり、これを大学が真摯に取り上げることが大事であることが指摘されました。

樺島氏からはICUキャンパスの主として建物の歴史 について、本館が旧中島飛行機の研究本館であった ことや泰山荘高風居にある松浦武四郎の一畳敷など 貴重な歴史文化財などについて述べられました。

パネリストからの発言に続いてフロアからの質問、意見があり、最後に永渕光恵同窓会会長のご挨拶があり、同窓会と日比谷学長、北城理事長との会合を行うことを報告され、閉会しました。総じて今回のシンポジウムを通じて特に重要なことはキャンパスマスタープランについて長期的な視点から合意形成の方法、キャンパスの生態系、動植物等の継続的調査を含む環境アセスメント、情報公開などが必要であるとことでした。

シンポジウムの後、アラムナイハウスで懇親会を行い、パネリストも全員参加して参加者と交歓を行いました。

A_Goods

グッズ紹介

新同窓会グッズ誕生!

1) 名刺入れ・カード入れ

ちょっとお洒落な名刺入れ(ピンクと白) が完成しました。

以前の黒・茶のものに加え、本革製の実 用的なものです。笹マチ型で、名刺が 30枚入ります。

表面にICU同窓会ロゴが刻印されています。価格は各2,500円です。

2) 付箋メモ用紙

ICUの建物シリーズ第一弾。ICU教会とアラムナイハウスがデザインされた便利な付箋メモ用紙です。 1 冊50枚綴り。描かれている絵は、アラムナイハウス2階で働く同窓会事務局スタッフの岡田路子さんのデザインです。(7.5 c m × 7 c m。価格 各100円)

3)4)マグカップ

ロングセラー 校章入りICUマグ(赤・青・緑の3色で展開しています)と、蓋付き教会柄マグ(10期野村彰男さんの描いた教会の絵がデザインされたマグ)もマイナーチェンジしました。プレゼントにもご利用ください。教会柄マグ 1セット 2,000円ICUマグ 各1,000円

いずれも、学内の三省堂書店または同窓 会事務局にて販売しております。 桜祭りでもご紹介する予定ですので、ぜ ひ実物をお手に取ってご覧ください。

寄付者御芳名

ファミリーカイロプラクティック三鷹院&品川院

ID91 REUNION

トラベル ICU 貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございまし

た。

MISSING たずね人

深見 淳(43 ID99)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

泰地 典子(10)

藤平 正恵 (10)

大石 あさ子 (10)

加納 正康(18)

清水 護(元教授)

心よりお悔やみ申し上げます。同窓会 WEB にも

訃報ページを新設いたしました。

詳細は事務局までお問い合わせください。

■ 大学・同窓会に関する情報が満載です。ぜひ 一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ http://www.icu..ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

Tel&Fax: 0422-33-3320
Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com





キャンパス・マスタープラン委員会参加記

今後のICUキャンパスの指針となるキャンパス・マスタープラン、できました

文=樺島榮一郎(本誌)

キャンパス・マスタープラン[1]委員会は、 ICUの60周年記念事業の一環として設けら れた4つの委員会(他はアカデミック・プ ログラム委員会、記念募金委員会、イベン ト・広報委員会) の一つである。同窓会の 関与が要請されたため、「キャンパス物語」 の執筆等で、多少なりとも関連した知識を 持つ理事の、筆者が委員として参加するこ ととなった。以下で、決定されたマスター プランの概要をお知らせする。また、いく つかの個人的所感を記したい。

委員会および マスタープラン概要

委員会は、2010年6月から2012年3月ま で、計9回行われ、約80ページの報告書が 2012年4月に発行された。委員は、白石隼 男財務理事を委員長に、日比谷潤子学長、 村上透総務副学長、西尾隆教養学部長、 Grant Pogosyan大学院部長、清水勇二学 生部長、鈴木美南子法人理事、中村一郎法 人理事、円谷恵事務局長、池ノ内健司法人 業務部長(当時)、David Vikner JICUF President、そして筆者の12人の構成である。 また、陪席として山本和総務理事、事務局 として富田重成管理部長、大福由信管財グ ループ長(当時)、千保卓也管財グループ 員も出席した。さらに、マスタープランの 立案や関連した実際の調査、報告書の作成 などを行うコンサルタントとして、三菱地 所が入り毎回4~7人の関係者が出席、合 計20人程度で会議が行われた。

検討の項目は、教室等の使用状況調査と 必要面積、希少植物、歴史的建物の評価、 桜並木の現状、建物ごとのエネルギー消費、 看板等のサイン計画、国際林活用、体育館 や学生寮新設のスタディ、教員住宅の集約 建て替えスタディなど、多岐に渡るが、こ こでは、基本であるゾーニングと、本館等 のキャンパス全体の更新スタディについて 報告する。

マスタープランで一番重要になるゾーニ

ングは、図1のとおりである。オレンジの 点線の部分は、アカデミックコア・エリア、 新寮や食堂などの生活文化エリア、スポー ツ施設エリア、パワーステーションや本部 棟などのサポート施設エリアにより構成さ れる、「キャンパス・コアゾーン」となる。 これは現状を踏襲したものと言える。紫の 点線のマクリーン通りと礼拝堂の「キャン パス・シンボルゾーン」が設定されたのは 新しい。緑の点線の部分は、教職員住宅エ リアや研究の杜エリア「活用樹林ゾーン」 だが、特に正門横に将来活用エリアが設け られた。他に、基本的に開発を考えない「保 存樹林ゾーン」、「高校ゾーン」の5つのゾ ーンに分けられた。このゾーニングは、学 内で構成されたキャンパス・ゾーニング委 員会の2007年の答申と大きく変わるもの ではない。逆に言えば、希少植物や遺跡の 分布や現状の利用、動線などの状況から、 これ以外のゾーニングの可能性はあまりな いと言える。

本館等の将来の施設配置の検討という部 分では、三菱地所側から3案の提示があっ た。3案とも、固定資産税の軽減や下水設 備等の条件から裏門の周辺に教職員住宅を 集約し、現在のクラブハウスを体育館との 複合施設として建て替え、第二男子寮を新 寮に建て替えるという部分(図2の下部) は同じだが、本館の扱いが異なる。第1案 では、本館西側に2棟の教室棟を建設、本 館の機能を一時、この建物に移した後、本 館は耐震補強を行うか、現在と同じ位置に 建て替え、その後、理学館を撤去するとい うもので(図2参照)、この3案のなかでは もっとも現状の空間構成に近い形となる。 第2案は、現本館の北側に新しい本館を、 西側に教室棟を建設し、その後現本館を撤 去するというもので(図3参照)、北側の クアドラングルは狭くなり、バカ山と新本 館の間にスペースができる等、空間構成は 現況と変わるが、費用は1案に比べると多 少安くなる。第3案は、新寮と学食を繋ぐ 円形の道路に沿って本館と理学館を立て直 すというもので、可能性は低いことから図 は省略する。

いくつかの個人的な所感

最初にこのような貴重な機会を与えて頂 いた、同窓会および大学関係者に感謝した い。特に大学の方々には、スケジュール調 整でご配慮いただくことで、9回すべてに 参加することができ、多くの発見があった。 今回の委員会は、役職者をメンバーとする オフィシャルな会議であったが、これに、 問題の設定のあり方や解決策などをフラン クに話すことができる、ワーキンググルー プ的なものを組み合わせることで、さらに 効果的な委員会になるのではないかと感じ た。また、キャンパスを研究や教育の場に されている先生方や、意思決定などを専門 にされる先生などの大学内部の知の活用を することで、さらに先進的な取り組みが可 能になり、それは教育や広報等に生かせる 可能性もあろう。

マスタープランはガイドライン的役割を 果たすもので、そのまま実行するものでは

ないとのことだが、今後の具体的な展開を 考えると、特に既存の建物の更新の場合、 授業等、中断できない学校業務との兼ね合 いがでて、単純な新築よりも事態が数段複 雑になることが予想される。このような場 合、工夫次第で、工事費のみならず引っ越 し等の諸費用を含めた総費用を低減できる 可能性があるので、できる限り多くの検討 案を立案し、詳細にスケジュールを検討、 周辺建物の一時的な利用などを含めて、計 画当初に、創造的かつ丁寧な検討を行うこ とが重要になってくる。場合によっては、 コンペを行い、広く知恵を集めても面白い と思う。

今回のマスタープランにより、曲がりな りにもキャンパスの多様な情報が集約され た。このマスタープランを踏まえ、さらに 美しく、環境に配慮しつつも機能的で先進 的なキャンパスが実現されることを願って やまない。

[1] 基本計画とも言われる。大学や会社、団地など、大規模な土 地に多数の建物を建設する場合のガイドラインや長期計画を示す。 いわば私的な都市計画と言えるもの

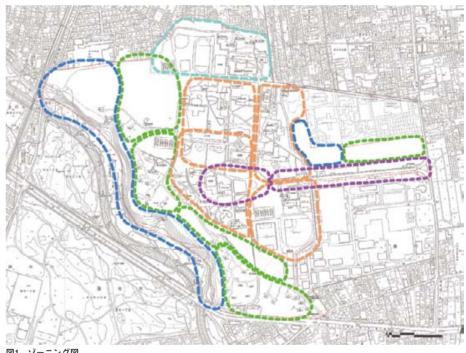
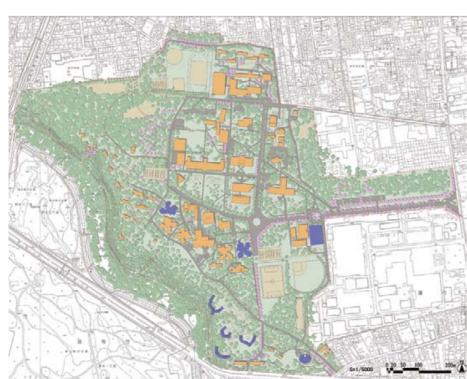


図1 ゾーニング図



将来施設配置のスタディ、木館を現在と同じ位置とし、西側に教室棟を2棟建設、理学館を撤去する第1案



木館を北側に立て直し、西側に教室棟を1棟建設する第2案

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサイズ 6 万円・ハーフサイズ 3 万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオン等の案内・報告をお 寄せください。本誌およびホームペー ジに掲載いたします。

★ ICU 同窓会とは関係のない名簿業者にご注意ください!

「人事新報社」という業者から名簿の 申込みの往復はがきが郵送されている ようですが、この業者は ICU とも ICU 同窓会とも一切関係がございま せん。個人情報の流出にはくれぐれも ご注意ください。

★ 同窓会名簿について

同窓会名簿は 2006 年に発行されたものが最後となります。まだ在庫がございますので、購入をご希望の方は事務局までお問合せください。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際は同窓 会ホームページの住所変更メール (aaoffice@icualumni.com) ま た は FAX(0422-33-3320) で、ご一報くだ さい。地方・海外にご転勤の際には支 部をご紹介いたします。同窓会事務局 までお問合せください。携帯の方はこ ちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え 方から、同窓生の著作、雑誌インタ ビューなどには、略歴欄に「国際基督 教大学卒業」とお入れいただけますよ う、お願い申し上げます。

★ 四季が綺麗な ICU キャンパス。足 を運ばれた際にはアラムナイハウスへ お気軽にお立ち寄りください。

100 円にてコーヒー・紅茶をお出しし ております。

なおラウンジ使用中にはご要望に沿え ない場合がございます。

人工芝、着工!

2010年暮れに学長に要望した人工芝グラウンドは、この暮れに着工が認められ、この4月竣工予定となりました。 多数の同窓生から応援を頂き、まことにありがとうございました。

ICUフィールド人工芝化推進協議会

STAFF

EDITOR IN CHIEF

樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro (37 ID93 G1997)

EDITORS

野仲裕子 Nonaka, Yuko(48 ID04) 栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi(34 ID90) 橋本明子 Hashimoto, Akiko(35 ID91) 森川幹人 Morikawa, Mikito(47 ID03) 清水 裕 Shimizu, Yu(50 ID06) 小林智世 Kobayashi, Tomoyo(52 ID08)

PHOTOGRAPHERS

青地あい Aochi, Ai(42 ID98) 一之瀬ちひろ Ichinose, Chihiro(42 ID98)

ART DIRECTOR

佐野久美子 Sano, Kumiko (40 ID00)

PRINTING DIRECTOR

杉浦健一 Sugiura, Kenichi(小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

谷 摂子 Tani, Setsuko(33 ID89)

PUBLISHER

永渕光恵 Nagafuchi, Mitsue (21 ID77= 海老原)

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験を AN に生かしてみませんか? 企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒に担っていただける方を募集しています。もちろん未経験でも上記にご興味のある方、また現役の学生さんは、各界で活躍する先輩と一緒に活動できるチャンスです。同窓会事務局へメールでご連絡下さい。

メールアドレス:aaoffice@icualumni.com

[今号の一枚] バカ山でコタツを囲む

撮影:廣瀬正宜名誉教授



この写真を見て、みなさんツッコミたいことがたくさんあると思います。「何の集まりなの?」「コタツはどこから持ってきたの?」「電源はどうしてるの?」…とか。でもそんなことが気にならないくらい写真に写っている学生さんたちは楽しそうで、幸せそうです。秋の高い空の下、バカ山でコタツを囲むなんて、なんとICUらしい風景でしょう。ということで、はいチーズ。

※新コーナー「今号の一枚」はじめました。あなたが撮ったICUらしい一枚を送ってください。写真と情報をいただけたらこちらで記事にします。ICU同窓会事務局へメールで送ってください。

メールアドレス:aaoffice@icualumni.com